

KURE KOSEN

 National Institute of Technology, Kure College

呉高専だより



2014年12月の呉高専施設全景

呉高専と保護者をつなぐ情報紙



目次

●巻頭のことば（卒業生・修了生に向けて）

自分の可能性に蓋をするな（校長 森野 数博）	2
卒業生の皆さんで卒業おめでとうございます （後援会会長 当田 信幸）	3
カーブに黒田が帰ってくる（副校長 黒木 太司）	3

●卒業・修了に向けて

機械工学科 <担任>野村 高広 <学生>古久保 佳男、木曾 将央	4
電気情報工学科 <担任>横瀬 義雄 <学生>一瀬 直人、下向 翼	6
環境都市工学科 <担任>堀口 至 <学生>北本 大樹、藤岡 大雅	8
建築学科 <担任>西宮 善幸 <学生>川崎 啓太、西川 諒也	10
専攻科 <専攻科長>岩本 英久 <学生>田川 千尋、水尻 大輔	12

●進路速報（平成26年12月現在版）

就職・進学速報	14
---------	----

●1年を振り返って

本科1学年 <担任>市崎、平野、外村、赤池 <学生>北浦、山本、渡邊、有田	16
本科2学年 <担任>平松、外谷、北村、下倉 <学生>小川、大町、島村、前本・伊藤	18
本科3学年 <担任>山田、上杉、三村、岩城 <学生>有尾、宗像、中村、矢野	20
本科4学年 <担任>深澤、板東、重松、大和 <学生>岩崎、紙田、永井、三島	22
専攻科1年 <コース担任>吉川、横沼、河村、仁保 <学生>寺本、山田	24

●呉高専 創立50周年記念事業

呉高専創立50周年記念式典・記念講演会等について	26
--------------------------	----

●トピックス

コンテスト全国大会出場報告	28
第25回全国高専プログラミングコンテスト 全国高専デザインコンペティション2014 in やつしろ アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2014全国大会 全国国立高専3Dプリンタ・アイデアコンテスト 第8回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト	
技術者の国際性を育む仕組み造り（国際交流室）	29
世界を知り、世界と対話し、そして世界に挑戦する（国際交流室）	
無限の可能性 co-ba 呉高専（広報副委員長）	30
私たちが作る高専祭（広報副委員長）	
図書館の利用の仕方（広報委員長）	31
2014 高専女子フォーラム in 中国（男女共同参画推進室）	

自分の可能性に蓋をするな

校長 森野 数博



卒業生、修了生のみなさん、卒業・修了、おめでとうございます。みなさんは同世代の若者に先んじて専門的な学問に触れ、短期間で多くのことを学び、ものづくりの中核を担う人材となるべく励んだ高専の勉強は、かなり厳しかったのではないかと思います。それだけに、無事に旅立つ日を迎えられ、大きな達成感と自信が沸々と湧き上がっていることでしょう。

みなさんが本校に在学していた間、我が国を取り巻く社会・経済環境は急激に、そして大きく変化しました。ひとつは技術革新、イノベーションです。ちょうど半世紀前に開業した新幹線はリニア新幹線へと進化しようとしており、56年前に竣工した東京タワーはスカイツリーにバトンを渡し、その役割を終えました。なかでも顕著だったのは、コンピュータをベースとした情報技術です。ますます進化するIT技術はインターネットを通して世界をつなにし、スマートホンやタブレットの普及に拍車をかけ、我々の行動様式を大きく変えつつあります。このことがもうひとつの大きな変化、グローバル化の誘因となり、東南アジアを中心とした新興国の躍進を促しています。

翻って我が国は、世界第2位の経済大国であったかつての成功体験の夢から醒めきれず、内向き志向も相まって、気がつけば先進国からは水をあげられ、新興国からも追い上げられ、アベノミクスで体勢を立て直しつつありますが、危うい状況に変わりはありません。このような社会にみなさんは飛び出していかなければなりません。新たな道に踏み出そうとする者の常である不安感に加え、このような先行きが見えない社会に大きな不安を感じている人もいることでしょう。そのようなみなさんに、私から二つのことをお勧めいたします。

ひとつは「挑戦」です。

ある企業が、これからのめざすべき指針を、次のように示していました。テーマは、「もうひとつ地球をつくる」としたら。

「前例がない」と経験が言いました。「難しい」と常識が言いました。「不可能だ」と理性が言いました。「おもしろそうだ」と想像力が言いました。「やってみよう!」と行動力が言いました。もうひとつ、地球をつくる。私たちは変わっていくことを選択しました。これまで培ってきた「想像力」と「行動力」で、世界でたったひとつの企業をめざして。

これはほんの一例ですが、みなさんが生き残るには、このような姿勢が必要なんですね。

もうひとつは「失敗を恐れるな」ということ。

人生、全勝したい、と誰しも思います。しかし、それに固執すると大きな仕事はできません。よく、5勝4敗1分けの理論、と言われます。勝ち越せばいいんです。そう吹っ切れると冒険ができます。10回のうち、4回は失敗ができるからです。バットは長く持たないとホームランは打てません。

挑戦には失敗がつきものです。しかし、シリコンバレーでは、失敗したことが勲章だとのこと。不運は得てして好運に変わり、好運は得てして不運に変わります。

みなさんの人生は始まったばかりです。視界は依然として不透明ですが、失敗を恐れず、夢に向かって挑戦していただきたい。そして、そのとき大切なことは、「自分の可能性に蓋をするな」ということです。

大横綱大鵬を抜き、史上最多33回の優勝を果たした白鵬は、入門したての15歳のとき、体重はわずか62キロだったとか。それでも、師匠の宮城野親方にこう言っていたそうです。

「関取にならなきゃ、国に帰れない」

Realize Your Dream。本校が掲げているキャッチフレーズです。「君の未来を共に創る」。みなさんが抱いているそれぞれの夢を、みなさんのもつ可能性が最大限に発揮されるよう、これまで私たちがサポートしてきましたが、これからはみなさんが、みなさん自身の可能性を信じ、自分自身で「自分の夢を実現」すべく、精進を続けていただきたい。そして、みなさんには、みなさん自身の夢を実現するだけにとどまらず、「人々の夢を実現」することも大きな使命であると心していただきたいと思います。

本校にとって記念すべき「創立50周年」の年に巣立つみなさん、みなさんが己の可能性を信じ、これからも成長を続け、人類の未来に貢献されんことを願っています。





卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます

後援会会長 当田 信幸

これまで厳しい学生生活を頑張ってきた日々研鑽を積み重ねてきた事と思います。いま振り返れば短かった5年間か、長かった5年間かは各自思いをはせていることでしょう。今までどんな苦勞があり紆余曲折したとしても、最後に卒業という形で終われることは大変喜ばしいことです。皆さんが学んだ一般科目の物理や数学、または専門科目の知識は今後の社会や大学において支えとなります。そして呉高専で培ってきた研究開発能力や実践力などをこれから進む社会でどれだけ発揮し証明できるかが大切です。皆さん自身のためでもありますし、呉高専の評価を高める事に繋がります。母校発展のためにも力を貸していただきたいと思ひます。

これからの社会は、ますますグローバル化が進むとともに技術革新が激しくなっています。幅広い視野を持ち、チャレンジ精神や忍耐、また感謝の気持ちを忘れず呉高専で過ごした年月の中で経験したこと、身に付けたものを糧とし、どんな状況に置かれても逃げ出すことなく自分の力を最大限に発揮し努力をしてください。人はひとりで生きているわけではありません、必ず誰かの支えがあります。友人の励励や先生方のご指導、また家族の理解や助言などがあってこそ今の君達がいま、このことは決して忘れてはいけません。今から君達はま

だまだつらく険しい別々の道を進んでいきますが、高専生活の中で出会えた人達とのつながりを生涯大事にしてこれからの人生を進んでもらいたいと思ひます。今までは大半の人が自分の事だけを考えて生活することだけで精一杯だったと思ひます。これからは周りの人達を助け自分以外の人のために働く事も心掛けてください。「情けは人の為ならず！」です。そして国内のみならず世界に羽ばたいて活躍できる人材になってもらいたいと思ひます。夢を持って進んでください、必ず道は開けます。他人の作った道を行くのではなく、君達自身が新しい道を作って進んでください、友人や恩師が必ず支えてくれ応援してくれます。もちろん家族はいつでもそばにいます、悩んだときには振り返ってください、笑顔で答えてくれるはずですよ。

頑張れ若人！



カープに黒田が帰ってくる

副校長 黒木 太司

年末にこの報道を聞き、身震いした人は多かっただろう。万感の涙を振り絞った方もいたという。しかしながら黒田選手の来し方は決して順風満帆ではなく、逆境時に流した熾烈な汗が現在の活躍につながる。現役大リーガーとしての円熟期に確固とした大和武士の志気を鼓舞した事実は、マネーゲームが加熱するスポーツ界に一石を投じたに違いない。

先日の箱根駅伝も痛快であった。青山学院大学を初優勝に導いた原晋監督は、就任当時の弱小駅伝部であって、強豪大学の役員連中にけんもほろろの対応をされたと聞く。臥薪嘗胆の日々であっただろう。しかし独自のビジネスモデルで苦節10年、箱根駅伝に新たな金字塔を打ち立てた。

工学の世界にも同じような事例はある。青色ダイオードの発明がノーベル賞に値するか否かは議論を待つことにして、青以外の光の三原色である赤及び緑色の高輝度発光素子を発明した東北大学名誉教授西澤潤一先生は、昭和40年代に光ファイバを公表した折、著名な教授から「ガラスの中を遠くまで光が伝わるはずはない」と一喝され地団駄踏んだとおっしゃっていた。それから十数星霜、都会の喧騒から離れた仙台の地でこの独創の目は育まれ、光通信が実用

化されることになる。

私事で恐縮かつ先達に比して到底足元にも及ばないが丁度20年前、周囲の反対を押し切り東北大学から呉高専にUターンした。当然学会とも疎遠になったが、仙台同様に呉は成長する学生の格好の踊場であった。研究室の門を叩く専攻科生を磨くことにより、100年近い学会の歴史の中で、高専生初の学術奨励賞、国際会議論文賞など多くの躍動が発信された。専攻科から大手企業に就職した学生達も、大学院卒の同期を抑え入社8年目で管理職に昇進するなど、産業界でも高専初の実績が衆目の一致する所となりつつある。斯くいう私も学生達の追風に押され、現役高専教員として初の諸学術会議委員長を拝命する幸運を得た。他高専の先生方が学会でご活躍されている現状を勘案すると、高専専攻科のあるべき道に先鞭をつけて頂いたことになろう。

シンクロナイズスイング井村雅代コーチの言霊はいつも我々の琴線に触れる。「三流は道に流され、二流は道を選び、一流は道を作る」

本校を巣立つ諸君。いかなる分野に惑うとも、全員奮励努力し、常に一流を目指すべし。

機械工学科



M5 卒業生にむけて

機械工学科 5年担任 野村 高広

皆さんとは2年前の4年生のときから、担任として、そして流体力学の授業担当として初めて出会うこととなりました。42名のクラスの第一印象は、大人しく心のつかめないタイプが3/4程度と多いなと感じました。しかしながら、球技大会、保護者面談、インターンシップ、グアム旅行、球技大会、高専祭、駅伝大会・・・と行事をこなしていくに従い、それぞれの人柄が少しずつ感じ取れてきました。部活、勉強、英語、音楽、ダンス、歌、絵、折紙、二輪車、四輪車、改造車、模型、ラジコン、二次元遊戯・・・などなど、表には自ら表現しないけれども、様々な分野で学内外にて積極的に活動しているクラスなんだなど。

さて、1年が流れ、4年の3月になると、残念ながら単位不足により4年を再チャレンジするもの、自分の理想に向かって進路変更するもの、無事5年に進級するものに道が分かれ、当初42名のクラスが、なんと35名のクラスとなり5年生がスタートしました。この時、大人しいタイプが4/5程度となり、さらに物静かな独特の雰囲気のクラスとなりました。5年生に進級したと同時に、最初の難関である就職活動や進学対策が待っていました。就職組は、履歴書の作成や面接の模擬練習が思うようにできず苦労したことでしょう。何度も教員室をノックし、面接練習のスケジュールを調整する多くの学生の姿が見て取れました。進学組は、編入試験の過去問を苦労して解いたことでしょう。幅広く出題範囲があり、絞って勉強することが困難であったと思います。自己分析がまとまらず苦悩した人、予想外の試験問題で苦戦した人もいましたが、8月には全員が進路を決着し、最後の夏休みを有意義に過ごしたのではないのでしょうか。11月の最後の高専祭では、「揚げタコ」の模擬店を全員で楽しく取り組んでいる様子が印

象に残っています。5年間の友との絆を再確認しているようにみえました。

楽しかった高専生活もあっという間となり、卒業にむけての最後の仕事を1・2月に取り組みましたね。そう、卒業研究です。9ヵ月間もの長い時間、自分で考え選択し行動した量に比例して、その達成感は個々で異なったことでしょうか、きっと思い出に残る研究になったのではないのでしょうか。座学とは全く異なる研究手法の流れは、ある意味、社会勉強にも繋がります。自分で考え選択し行動する。実社会ではこの繰り返しです。この繰り返しを続ける限り、皆さんは更に成長していくことでしょう。成功も、失敗も、同じく自身の成長へ繋がることでしょう。

いよいよ4月からは、皆さん全員は、機械技術者の卵として、さらには成人した社会人として、一步一步進んでいくことでしょう。しかしながら、うまくいくときもあれば、そうでないときも当然あります。自分の選択に不安がでてくることもあるでしょうし、場合によっては、心の折れることも経験するかもしれません。その時は自分一人で抱えず、家族や友人、同僚や先輩に話をするのが大事です。それでも、どうにもならないときは、遠慮なく学校に寄って、教職員に話を聞かせて下さい。呉高専OBの皆さんをいつでも待っています。知恵を絞れば、解決策はいくらでもあるはずですし、実は大した問題ではないことに気が付くかもしれません。

ともあれ、5年（あるいは6年）という長い長い道のりの卒業、本当におめでとう。そして、2年間の担任を通じて、皆さんから多くのことを勉強させてもらいました。本当にありがとう。

五年間の友人

機械工学科5年 木曾 将央



私の高専生活は、多くの友人に囲まれ、とても充実したものであった。中学の頃と比べ、高専には趣味の合う同級生が多く、毎日が楽しい高専生活を送ることができた。

機械科では実際に工作機械を操作し、実戦経験を積むことができる工場実習という講義がある。そこで初めて旋盤という工

作機械に触れた。その頃は、こんな機械をこの先ずっと使っていくのかと、今後の実習に不安を感じた。

そんな中、高専生活初の中間試験が始まった。私は、「中学時代は良い点数を取っていたし、余裕だろう」と高を括っていたが、いざ返却された解答用紙は予想を遥かに下回る点数で心が折れそうになった。その後も留年したくない一心で勉強し、二年生になることができた。それは、二年生初の中間試験の時だった。「今回も無事に通過できるだろうか・・・」そんな不安に私は満たされていた。そんな中、クラスの友人が「一緒に勉強会を開かない?」と呼びかけてくれた。そのときから、放課後の時間を使って勉強会を開き、留年することなく五年生になることができた。また、学年を重ねるにつれて実習回数が増え、私は工作機械の扱いに慣れ始めていた。例えば、工場実習の失敗談を友人との笑い話にできるほどに。

五年間、一緒だったクラスメートたちは、私にとってかけがえのない友人だ。彼らと過ごしたことで、私は本当に充実した高専生活を送ることができた。五年間楽しい思い出をありがとう。

たくさんの人に支えられて

機械工学科5年 古久保 佳男



あっという間の5年間でした。成熟し切れていないと思うことも多々あり少し不安もあります。一方で、専攻科に進学することに決まり、自分の目指すグローバルに活躍できる人材への道を着々と進んでいるという実感もあります。

呉高専は企業出身の先生も多く、企業の求める人材について

お話いただく機会も多くありました。特に2・3学年時の担任だった山田先生のお話は、自分が将来なるべき姿を考える際に大いに参考になりました。進路を決めるにあたっては、まだ就職か進学か決めきれなかったとき、担任の野村先生が親身に相談に乗ってくださり多くの就職進学に関する情報や助言をいただきました。

また、両親の「自分のやりたいようにしろ」という言葉も後押しになり進学することに決めました。

こうして考えると、進路を決めること一つをとっても、さまざまな方に支えられているとわかり感謝に堪えません。

社会で活躍できるような人材になり、これまで支えてくださった方々に応えられるよう一層努力したいです。

最後に、温かくご指導いただきました先生方並びに保護者の皆様に5年機械科を代表してお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

思い出(行事等)



2年生の体育祭にて



4年生の高専祭模擬店にて



4年生特別見学旅行の夕食会にて



4年生特別見学旅行の恋人岬にて



5年生の体育祭り



5年生の駅伝大会にて

電気情報工学科



ワーク・ライフ・バランスを大切にしましょう

電気情報工学科5年担任 横瀬 義雄

電気情報工学科5年の皆様、ご卒業おめでとうございます。このクラスは全員の進路が決まっているので、安心して卒業式を迎えることができました。

私は呉高専に来て25年が過ぎることになりますが、5年の担任を務めるのは3度目でした。毎回のことですが、4年の担任から5年の担任に上がる時期は、クラスの全員の進路が決まるかどうか不安な毎日です。5年生に上がり進路に関する活動が始まると、毎年のことですが前半は順調に決まっていきます。けれども、後半になると2社目や3社目を受ける学生もおり、先行きが不安になってきます。しかし、不安な気持ちは就職活動や大学受験を行っている学生本人の方が大きいので、学生の前でそのような表情や態度をとることがないように心がけます。早々に内定が決まった学生に関しても、こちらから通知をする前に「大喜びして未定の学生を焦らさないように」と注意することが必要です。最後の頃も、誰が最後でいつ決まったのかが分かりにくいように心がけています。そのため、全員の進路が決まっても内々で喜ぶだけで、クラス内でもいつの間にか全員が決まったような雰囲気です。

さて、卒業される皆さんへ一言、呉高専を卒業することは人生のステージ変化である節目の一つです。皆さんは、これまでに小中学の入学・卒業という節目を超えてきたと思いますが、高専を卒業してからも多くの節目を迎えることとなると思います。就職してからも配置換えや異動、または転職などもあるかも知れません。また、結婚や育児などを経験することもあるでしょう。学校の卒業や入学に関しては、古い過程が終了して新しい過程が始まるので、多少増える授業時間などがあっても慣れてしまえば時間的な余裕は大きく変わらないと思

います。クラブ活動や余暇の過ごし方も大きな変化がないのかも知れませんが、就職で入社となる節目は、ワークである決められた就業時間や任された仕事を終えるための残業等があるので、学生時代とは違う責任の重さやライフに関する時間の使い方によくの変化があると思います。また、結婚や育児に関しては、古い過程を終えて新しい過程を迎えるのではなく、古い過程はほぼそのまま新しい過程が増えることが多いので、柔軟にバランス計画を見直すことが大切となります。

タイトルに「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を入れましたが、ワーク以外の時間全てをライフとすると、ワークは多い年でも土日などの休日出勤を含めても50%を超えることはないと思います。勤務日に実働で平均10時間程度働き土日を休むとすると、年間のワークは20～30%程度だと思います。「ワーク・ライフ・バランス」と言いますが、「ライフ・ワーク・バランス」が適当な言葉かも知れませんが、したがって、ワークの割合は年間で見れば大きいものではないので、仕事が忙しい時でもライフの中でバランス計画を見直せば柔軟な対応ができるものと考えられます。

皆さんは、これからの人生で多くの節目を迎えることになると思いますので、柔軟に乗り越えられるよう頑張ってください。特に結婚や育児の時は、無理に計画を積み上げて体調を崩すことも考えられますので、その前にバランス計画のことを思い出して柔軟に対応してみてください。

謳歌

電気情報工学科 5年 一瀬 直人



私はこの5年間、個性的なクラスメイトの皆と面白い先生方のおかげで愉快的な呉高専生活を送ることができました。

振り返ってみると、とにかく楽しんでばかりの日々でした。学校に入学した初日から、席が近かった皆とトランプで大富豪をしたのを覚えています。また、休憩時間や放課後に皆で様々な

テーブルゲームや携帯型ゲームをして、家に帰ってからオンラインで一緒にゲームをして遊んだのは良い思い出です。

高専祭やステップキャンパス、研修旅行といった学校行事でお祭り気分を味わうのも大好きでしたし、何より学校行事やテストが終わった後に皆でカラオケに行くのが楽しみでありませんでした。

そんな私が何か特別にしたことといえば、3年生のときの映画製作があります。ストップモーション作品を作るために、クラスメイト3人と2週間、休日も学校にきて撮影をしました。期限に間に合わせるために最後には徹夜して編集作業を進め、ところどころやつつけ仕事になったものの何とか完成させました。忙しいながらも、皆で試行錯誤しながら撮影したのは楽しく充実した時間だったと記憶しています。協力したものを作り上げる良い経験にもなりました。

話したり遊んだり、そんな当たり前なことが楽しくて仕方がない毎日でした。皆と過ごした時間は一生の宝物です。私に関わった全ての人に感謝します。ありがとうございました。

社会人に向けて

電気情報工学科 5年 下向 翼



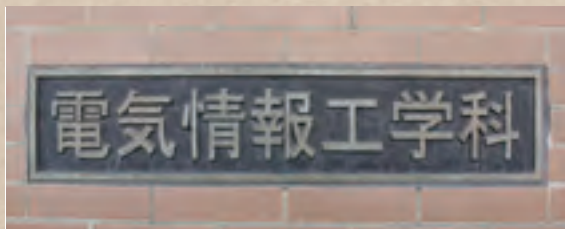
目を疑うほどに今まで見ていた世界の色が変わりつつあります。この新鮮な色が胸の高鳴りを加速させ、体のうちから破裂しそうなほどにこみ上げる夢と希望。これから、電気という当たり前になくはならないものを当たり前に届けるという重大な役割を背負います。

電気は質、利便性に高く、着実に社会変革をもたらすエネルギーです。これを、めまぐるしい技術革新の中、国境を越えて動く経済市場と環境問題を視野に入れて広めていきます。これから新時代を切り拓いていける喜びと、増していく責任の重さが、より一層の活力を湧かせ、じっとしてられません。この新しい一歩を踏み出せるのは暖かく支えて下さる周囲の力添えがあつてこそ得られたものです。心からこれまで支えてくれた方々に感謝しています。

高専生活という人間的基礎作りの最終段階は決して楽ではなく、成功以上に失敗が多い毎日でした。しかし、多くの失敗を重ねる中でも明るく楽しく元気よく、前向きに物事を解決するように取組み、経験値を積み上げてきました。だからこそ、今の固い芯があり、これからの更なる成功を手に行けるのだと確信しています。今後も、高専で学んだ専門知識を基礎とした高度な技術力を持ち、社会人としての高い教養を身につけるために、日々慢心せず、より一層の努力を積み重ねていきます。

「先生！社会人になって、また会う時が来たとき、度肝を抜くほどの成長ぶりに思わず感動の涙をこぼしますよ！」

思い出(授業等)



電気工学実験



IC設計演習



情報通信工学実験

環境都市工学科



卒業おめでとうございます！

環境都市工学科 5年担任 堀口 至

環境都市工学科 5年生の皆さん、卒業おめでとうございます！高専で過ごした5年または6年間いかがでしたか？長い高専生活の中で、色々な思い出を作ってきたと思います。なかには、辛くて苦しい思い出もあったかと思いますが、卒業する今、高専生活に対して少しでも充実感を覚えているのであれば、担任としてだけではなく、高専教員としても嬉しく思います。

皆さんの担任は4年生からですが、授業は1年生の測量実習が最初の授業でした。2年生以降は、建設材料、材料実験、構造力学、コンクリート構造など、多くの授業に関わってきましたが、皆さんは授業内容をちゃんと覚えていますか(笑)？今まで受けてきた授業、特に専門科目は不意に仕事で必要になることがあります。教科書やノートはなるべく捨てずに持っておいて下さい。既に後輩にあげたり、売ったり、捨ててしまった不屈きは、今後の仕事に必要なと思われる科目だけでもノートのコピーを手に入れておくように！呉高専を卒業した、ということは呉高専で教えられたことを全て理解している、ということです。特に就職する場合は、一般市民にとって1年目であっても皆さんは何でも知っている専門技術者の1人です。知らない、分からないでは済まされない立場です。今一度、呉高専で勉強してきたことを思い出して下さい。

実は、皆さんのクラスの担任が決まったことに、少々戸惑っていました。皆さんの前に3つのクラスに関わってきましたが、どのクラスも騒がしいクラスでした。なので、前のクラスと比べると皆さんは大人しく、環境っぽいクラスではないなあ、とずっと思っていました。

ただ、いざ担任を始めてみると、皆さんは人懐っこくて、ノリが良く、球技、特にソフトボールが強くて、イベントが好きで、勉強があまり得意ではない(?)立派な環境の学生であることが分かりました(笑)。4年の台湾への研修旅行や、5年の球技大会のソフトボール優勝はもちろんですが、教室や教員室などでの雑談も私にとっては楽しい思い出です。

皆さんの担任に戸惑っていたもう1つの理由が、初めての進路担当になることでした。もちろん、履歴書チェックや面接練習などは毎年頼まれて行っていますが、担任としてクラス全員の進路に関わるということには、少なからずプレッシャーを感じていました。進路指導は4年のインターンシップから始まりました。高専を訪問頂いた企業の方との面会、送付されてくる大量の資料の整理、編入学用の推薦書の作成など本当にやる事が多く、低学年の担任とは違った大変さがありました。特に書類仕事には気を使い、書類を皆さんにちゃんと渡したか、書類の締切りがいつだったか時々分からなくなって、独りで焦っていたこともあります(笑)。なるべく、皆さんの希望に沿った進路に進めるように指導やアドバイスをしたつもりです。皆さんの進路が、希望通りであったのであれば、担任として嬉しく思います。

2年間、皆さんの担任を務めました。ちゃんとできていましたか？「それなりに堀口頑張ってたじゃん！」なんて心の中で思ってくれていると嬉しいですね(笑)。卒業する皆さんが、次の進路で活躍できることを心から願っています。また、いつでも呉高専に遊びに来て、皆さんの近況について話を聞かせて下さい！

5年間を振り返って

環境都市工学科5年 北本 大樹



2010年、私たちは呉高専に入学しました。

新しい学校生活の始まりに期待と不安を抱えながら学校に通い、友達を作るためにできるだけ声をかけることを頑張っていたことを思い出します。

最初のクラスの顔合わせの時の自己紹介で「趣味はバスケット」と未経験にも関わらず言った

ことが功を奏し、無事すぐに友達もできスムーズにバスケット部に入部できました。1人で入部する勇気は無かったので、もしあの時自己紹介で言っていなかったら入部することもなくただらと退屈な5年間を過ごしていたかもしれません。そう思うと、本当に今まで楽しく過ごせてよかったと思います。

学校生活も順調にスタートして安心していても、勉強面でひどい目にありました。中学校まではテスト勉強を一切せず、塾へ通わなくても成績が問題なかったので、呉高専に入学してからも同じように挑んでしまいました。結果は、一般教科は赤点を免れたものの専門教科は惨敗でした。それからしばらく懲りず、本気で勉強するようになったのは2年の終わりで留年の恐怖が見えてからでした。

当初は5年で卒業できる気が全くしませんでした。本気で勉強することによって何とかここまで来ることができました。

思えば、部活動、勉強に真剣に取り組むようになったのは、呉高専に入学してからでした。本気を出さなければおいて行かれる環境に身を置き、その中で5年間頑張ってきたことで大きく成長することができたと思います。

この高専で学んだこと

環境都市工学科5年 藤岡 大雅

2010年入学した新1年生は、早いもので5年の月日が経ち、卒業生として桜の時期を迎えることになりました。

この5年間せわしく過ぎゆく季節にどれだけの夢を語ったのだろうか。夢を叶え手に入れた者、敗れ挫け膝をついた者、それは人の数だけの物語。この道の先にどれだけの苦難があることか、人はそれを知らぬ。知るのは神のみぞ。

過去を振り返れば、幾多の物語が蘇るでしょう。どの物語も私にとって欠かさぬものであり、我が道にかけがえのない唯一無二になりました。その記憶こそが私の核を成すものであると言わんばかりであります。しかし、まだ旅の途中であります。いつまでも記憶を眺めていて前には進めるだろうか。生きた証をここに置いて、この広い荒野に道を切り開く。決して自分の生きた証を忘れることもなく、祭の炎が絶えぬ限り。

この矛盾と理不尽に塗れた世の中に純真無垢な子羊達が足を踏み入れる。いつの日か心が汚れ狐になるだろう。満月を見つめる大神になるのもよい。だが忘れてはなりませんその過去を、必ず訪れる者は過去からやってくるものです。恐れ慄き立ちすくみ背中を丸めるそなたのもとに、過去が優しくそっと包み込む。温みのある見えない両手は太陽のように白くそなたの心を照らし出す。私はそれをただ見つめる人でありたい。

思い出(行事等)



球技大会



研修旅行(4C)



集合写真(4C)



体育祭



memories

建築学科



平成 26 年度 本科建築学科卒業生へ

建築学科 5 年担任 西宮 善幸

5 年間の呉高専の学生生活卒業、おめでとうございます。4 月から、就職、進学へとそれぞれ別な道を歩んでいくことになり「うれしいやら」「悲しいやら」「不安なこと」等様々な思いを持っていると思います。大丈夫です！皆さんは厳しい呉高専の学業を達成し、卒業する学生です。自信を持って前に進んでください。プライドを持って社会と向き合ってください。これからの社会は、あなた方自身が考え作っていく社会です。

私が 4 年の担任に決まった時、目標にしたことが二つありました。一つは、4 年生になった 42 人が全員で進級し卒業すること。二つ目は、進路指導として学生自身の目標とする進路を勝ち取る様に指導することでした。

第一の目標に関しては、厳しい 4 年次から 5 年次に進級する難関を無事一人も欠けること無く突破進級し、逆に珍しく 3 人増えて 5 年次では大所帯の 45 人のクラスとなりました。4 年次の前期では、成績で学年トップ、大きな行事「校外実習」をクラスの半数以上の学生が体験するなど、意欲的でやる気を感じさせました。一方、見学旅行では海外旅行の選択肢もあるのに、東京見学を選択し保守的な一面も見せていました。が、高専祭では、建築学科の作品展示で「みんなの家」1/5 を完成させ、このクラスの真骨頂と思える想像力の力と団結力、自主性を見せてくれました。この作品は、地元新聞にも紹介されたり、学内で年間展示されるなど、この年度のモノづくり呉高専を代表とする出来事と思われました。

次の第二の目標です。例年に比べ進学希望者が多く就職希望者は結果的に 25 人でした。今年度の就活状況に関しては非常に活発で「売り手市場」の形跡を見せおり、ほぼ第一希望か第二希望で決まっています。職種もゼネコンはもとより他の施工関係や建築設計関係、公務員など幅広く内定をもらっており、近年珍しく素晴らしいスタートと結果が出ています。進学から進路変更の就職希望者も順当に内定をもらいました。他方進学に関しては、進学希望者が多いことや希望大学の決め手の遅れ等も重なり、例年に無く内定が 12 月まで長引き、私にとって予定外でした。でも大丈夫です。何も心配する必要はありません。「目標:夢」を持つての進学です。どの様なときにも「目標:夢」をしっかり見定めていれば、願い事は叶います。このことは卒業生みなさんにも言えることであり、私にも言えることです。

今は私にとって第二の目標は叶いつつあります、皆さんが「目標:夢」を持ってこれからの人生を送って達成してくれれば、私の「目標」も叶います、何よりも楽しみにしています。報告待っています。

「呉高専」卒業おめでとう。

保護者、先生に向けて

建築学科5年 西川 諒也



2015年1月12日に成人の日を迎え、私も世間からはまだまだ未熟ではあるが、一社会人として扱われる年代となった。

これまでの人生の中で様々な紆余曲折を経て、私はこの20年間を過ごしてきたが、ここまで私が無事成長できたのも、保護者や呉高専の先生方の御蔭だと思っている。

私の家庭は母子家庭で母はどんなに忙しくても仕事も家事も完璧にこなしている。私はいつも母に世話ばかり掛けてしまい、申し訳なく思うとともに感謝の気持ちでいっぱいである。私が今こうして呉高専で勉学に励んでいられるのも私が中学生の時に母が呉高専への入学を勧めてくれたからであった。今も昔も私は母に支えられて生きているのだと身にしみている。そして、私を支えてくれているのは母だけでなく、呉高専の先生方も同じである。

私が入学してまだ間もない頃、先生方は私の本質を見抜き、学級員長に推薦してくれた。また私の苦手科目である設計製図の課題では、人一倍努力した結果、作品展に出品されるほどの評価をつけてくれた。先生方は本当に生徒の事をよく見ていると思う。時に厳しく、時に優しく接してくれる先生方は私にとって第2の家族のような存在である。学校にいても、家にいても家族を感じられる生活は私にとってかけがえのない時間であり、母や先生方には心底感謝している。

これからは私が立派な大人になる事で恩返ししようと思う。

5年間を振り返って

建築学科5年 河崎 啓太



私は、5年間この呉高専にお世話になった。5年間と聞くと長いように感じるが、仲間と過ごす日々が充実し、あっという間だった。

今思い返せば、呉高専に入学した動機は、受験日が公立高校より早く、受験生のプレッシャーから逃れたいという不純なものであった。そんな私は、当然の

ごとく慣れない環境、授業に苦しめられた。建築学科は、細かい作業や画力が求められ、不器用な私は絶望した。さらに、高専特有の留年の制度も聞かされ一時期は退学も考えたほど苦悩した。そんな時に私を助けてくれたのは同じクラスの仲間だった。楽しいときは一緒に全力で楽しみ、辛いときはお互いに支え合い、得意、不得意をカバーすることができた。この最高の仲間と最高の関係を築けたからこそ有意義な5年間になったと思う。

その5年間の中で一番印象に残っていることは、球技大会である。私は、4つある種目の中のミニサッカーに出場した。毎年恒例だが、特に、2年生の優勝できた瞬間は未だに鮮明に記憶している。当時、私たちは技術不足だったが、この仲間と勝ちたいという強い気持ちで技術面を補い、優勝することができた。

こうして卒業を迎えるが、仲間だけでなく、全面的にサポートしてくれた親や、授業、進路相談等でお世話になった教員の方々にも感謝したい。この貴重な経験、思い出はこれからの長い人生で大きな支えになると思う。

思い出(行事・授業等)



みんなの家



高専祭準備



建築学科校舎

memories

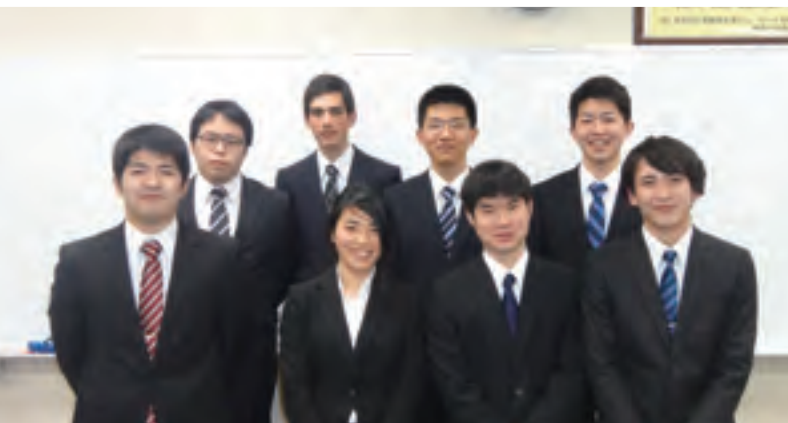


体育祭り



講評会(建築設計製図)

専攻科



修了生のみなさまへ

専攻科長 岩本 英久

専攻科修了生のみなさん、御修了おめでとうございます。呉高専の本科と専攻科を合わせて、7年間の高専生活を送り、このたび修了の日を迎えることができたみなさんに、心からお祝いを申し上げます。また、保護者のみなさまにおかれましても、今まで温かいご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。これから社会へと巣立っていく人、あるいは大学院に進学し、更に学問に励まれる人など、みなさんの進路は様々ですが、それぞれの夢の実現に向かって力強く一歩を踏み出しました。7年間の苦労と努力がみなさん自身の自信となって、グローバルな社会に挑み続けることを願っています。

さて、世界には「自分で解決できる課題」と「自分では解決できない課題」の2種類があります。後者の「自分では解決できない課題」では、多くの人たちと理解しあい、協力できれば解決できると思います。できないことを可能にすることがイノベーションです。イノベーションを起こすためには、まず、自ら「夢」を持つことが大切だと思います。夢をもてば、自分の心の中に理想が生まれます。理想があれば、実際の目標を立てることができます。目標を立てることによって実現するための計画を作ることができます。計画があれば、それを実行することができるようになります。そして、実行することを継続し、失敗してもあきらめなければ、かならず成功します。自分では解決できない課題でも、解決できるようになるのです。

実は、この考え方は吉田松陰の教えの一つです。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行

なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」

夢を持ち続けることの大切さを説いています。夢があれば、かならず成功すると言っているわけではありません。ただ、成功している人は、皆、計画を立てて、目標を一つずつ達成し、理想に向かって行動しているのです。修了生のみなさんには、それぞれの夢があるでしょう。それぞれの希望があるでしょう。夢を実現し、成功するために、みなさんは本校で技術と知識を修め、高専生活の中で豊かな人間性を身に付けることができたのです。世界がみなさんの活躍を待ち望んでいます。自信を持って、羽ばたいてください。自己実現のためだけでなく、人や地域や世界のために活躍されることを期待し、お祈り申し上げます。

専攻科での思い出と家族への感謝

機械電気工学専攻2年 田川 千尋



気が付けば専攻科2年目も終わりに近づいている。呉高専で過ごした日々が楽しかったのだろう、本科で過ごした5年間も専攻科で過ごした2年間もあっという間に過ぎていった。

この2年を振り返ってみると、他学科の授業を受講できたこと、他学科の学生と一緒に高専祭で模擬店をしたこと、学会で論文

発表したこと、英語で論文を書いたこと、他機関の講師から様々な分野の講義を受けたことなど、専攻科に進んだから体験できたことがたくさんあった。本科で得た知識をより深めたり、新しい内容を学んだり、3年間特別研究を続けることができたりと有意義に過ごせたことを嬉しく思う。

私が充実した高専生活を送れたのは、友達や先輩後輩、先生のおかげであることはもちろん、ずっと支えてくれた家族のおかげである。私が自分の選択に悩んでいるときにはいつだって「やりたいことをやりなさい。」と言って背中を押してくれた。高専に進学したいと言ったときにも、就職先の選択を先生や周りに人に反対されたときにも、4年生の3月までずっと就職を希望していた私が4月にいきなり「専攻科に進みたい」と言い出したときにも、「後悔しないならそれで良いんだよ。」と言ってくれたことがとても嬉しかった。あまり口には出さないけれどとても感謝しています、ありがとうございます。

最後に、先生方を始めお世話になった皆様へ感謝申し上げます。7年間ありがとうございました。呉高専に在学できて良かったです。

専攻科での2年を振り返って

建設工学専攻2年 水尻 大輔



今回、専攻科修了に際して、専攻科での2年間を振り返ってみると、友人や先生、両親といった多くの人に支えられて、充実した時間を過ごせたと感じている。

専攻科で最も印象に残っていることは、破碎した牡蠣殻を用いたポーラスコンクリートに関する研究をやり進めたことだ。

専攻科の特別研究では、研究の時間が多いことや学外での学会発表を行う必要があるなど、本科の時と違う環境に戸惑うことがたくさんあった。しかし、そのような状況においても、先生のご指導のおかげで、2年間の研究活動をやりきることができた。また、学会発表で優秀講演者に選ばれたことがとても良い経験になった。

専攻科2年の時に、大学院試験や学位授与試験など進路に大きく関わるイベントがあったことも心に残っている。進路に関わるとあって、試験前から不安になることもたくさんあった。そんな時には、友人や両親に精神的な面で支えられ、特に、試験前にみんなから送られてくるメッセージには勇気付けられた。このような友人や両親の存在があったからこそ、重要な試験も乗り越えることができたと感じている。

専攻科での2年を振り返り、自分1人で生きているのではなく、多くの周りの人たちに支えられていることに気付くことができた。私は大学院に進学するが、今後も周囲の人への感謝を忘れず、自分の夢に向かって進んで行きたい。

思い出(行事等)



専攻科棟入口



専攻科生に期待すること



スカイツリー



専攻科生交流会



memories

進路状況

専攻科

専攻科の修了生は、機械電気工学専攻が十二名、建設工学専攻が九名です。機械電気工学専攻において、就職者は十一名、大学院進学者は一名です。建設工学専攻において、就職者は六名、大学院進学者は三名です。就職率は100%で、就職内容は本科と同等です。大学院進学においては、東京工業大学など一流の大学院に進学しています。今後は大学院進学率が高まってくると思われます。

機械工学科

進学先としては、岡山大学に一名、一方、呉高专専攻科に十名と専攻科を希望し呉高专で現在の研究を継続したい学生が多かったことが今年の特徴であろう。例年同様、六月から九月にかけて、学生達は進学活動を完了することができた。一方、就職先としては、マツダに三名、マツダ（中国）に二名、日東電工に二名、日産スチールに三名、古川製作所に二名と一企業に複数名の内定者が、例年より多く目立った。例年同様、三月から八月にかけて、学生達は就職活動を完了することができた。

電気情報工学科

電気情報工学科の進路状況は、学生数三十五名に対して就職二十二名（63%）、進学十三名（37%）、本校の専攻科進学が五名（38%）で、進学が少し多くなりました。就職先の業種は、電力・鉄道のインフラが七名（32%）で根強い人気、鉄鋼・自動車等の製造が六名（27%）と少し多めです。電機やガス機器の製造に四名（18%）、情報通信は三名（14%）で少ない状況です。IT業界をはじめ多くの企業で採用意欲が高まってきており、その要望に応えきれない状況です。

環境都市工学科

本年度の就職先は、建設業にとどまらず、化学や情報メディア分野と多分野に及んでおります。また、他県に先んじて進められている広島市や呉市の水道事業の民営化に伴い、新しく設立された企業や系列の大手水処理業社から採用がなされたのも特徴です。今後とも水処理や建設業の求人数は増加傾向にあり売り手市場にあることが伺えます。

建築学科

建築学科の就職内定先は、例年通りほぼ100%の学生が内定済みです。（株）竹中工務店（株）大林組などの大手ゼネコンはもちろん、大手サブコン、メーカ、インフラ系など幅広く内定しております。大学進学もほぼ100%の学生が決められております。広島大学、千葉大学、豊橋技術科学大学などの国立が主流ですが、京都市造形芸術大学もあり、大学進学先も多彩です。

■表1 平成26年度専攻科修了生就職予定先一覧

< H26年12月現在 >

就職先	本社地域
呉市職員	呉市
広島県職員	広島市
JFE 電制 株式会社	東京都
TOTO 株式会社	福岡県
エムイーシーテクノ株式会社	東京都
株式会社ジェイ・エム・エス	広島市/東京都
株式会社タケウチ建設	三原市
株式会社ディスコ	東京都
五洋建設株式会社	東京都
新川センサテクノロジ株式会社	東京都
セイコーエプソン株式会社	長野県
西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社	広島市
日立建機株式会社	東京都
富士重工業株式会社	東京都
富士通テン株式会社	兵庫県
三菱地所コミュニティ株式会社	東京都

(50音順)

■表2 平成26年度専攻科修了生進学予定先一覧

< H26年12月現在 >

進学先	地域
岡山大学大学院環境生命科学研究科	岡山市
神戸大学大学院工学研究科	神戸市
筑波大学大学院システム情報工学研究科	つくば市
東京工業大学大学院理工学研究科	東京都

(50音順)

■表3 平成26年度本科卒業生就職予定先一覧

< H26年12月現在 >

企業等	学科名				
	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	本社地域
国土交通省			○		東京都
広島市職員				○	広島市
JFE シビル株式会社				○	東京都
JFE スチール株式会社	○	○			福山市
KDDI エンジニアリング株式会社		○			東京都
NEC ネットズエスアイ・エンジニアリング株式会社		○			東京都
旭化成株式会社	○		○		東京都
出光興産株式会社 徳山事業所			○		東京都
岩谷瓦斯株式会社		○			大阪市
大阪ガス株式会社			○		大阪市
大之木建設株式会社				○	呉市
花王株式会社	○				東京都
鹿島クレス株式会社				○	東京都
株式会社 NIPPO			○		東京都
株式会社 共栄店舗				○	福山市
株式会社 ジェイパック	○				東京都
株式会社 銭高組				○	大阪市
株式会社 竹中工務店				○	大阪市
株式会社 日建技術コンサルタント			○		大阪市
株式会社 プリントバック	○				京都府
株式会社 プレザンスコーポレイション				○	大阪市

企業等	学科名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	本社地域
株式会社 横河ブリッジホールディングス				○		東京都
株式会社 レールテック				○		大阪市
株式会社 NHK メディアテクノロジー				○		東京都
株式会社 NTT ファシリティーズ中国					○	広島市
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ (NTT データ)		○				東京都
株式会社大林組					○	東京都
株式会社サタケ				○		東広島市
株式会社ジェイアール西日本ビルト					○	兵庫県
株式会社日本製鋼所		○	○			東京都
株式会社長谷工リフォーム				○		東京都
株式会社ピーエス三菱				○		東京都
株式会社フジタ					○	東京都
株式会社古川製作所		○				三原市
株式会社マツダ E&T		○	○			広島市
株式会社水みらい広島				○		広島市
株式会社レオハウス					○	東京都
関西電力株式会社			○	○		大阪市
神田通信機株式会社			○			東京都
キャノン株式会社		○				東京都
キャノンマーケティングジャパン株式会社		○				東京都
極東興和株式会社				○		広島市
五洋建設株式会社				○		東京都
三機工業株式会社					○	東京都
シャープ株式会社		○				大阪市
新日鐵住金株式会社					○	東京都
新菱冷熱工業株式会社					○	東京都
タカスタンダード株式会社					○	大阪市
中国電機製造株式会社			○			広島市
中国電力株式会社			○	○		広島市
中部電力株式会社			○			名古屋市
千代田化工建設株式会社		○				神奈川県
東亜建設工業株式会社				○		東京都
東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海)			○	○		名古屋市
東京ガス株式会社				○		東京都
東京水道サービス株式会社				○		東京都
東京電力株式会社			○			東京都
東芝メディカルシステムズ株式会社					○	栃木県
東洋熱工業株式会社					○	東京都
西日本旅客鉄道株式会社 (JR 西日本)					○	大阪市
西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社				○		広島市
西日本高速道路メンテナンス中国株式会社				○		広島市
日東電工株式会社 尾道事業所		○				尾道市
日本オーチス・エレベータ株式会社			○			東京都
広島ガス株式会社				○		広島市
富士機械工業株式会社			○			安芸郡
フジタビルメンテナンス株式会社					○	東京都
フジテック株式会社		○				滋賀県
マツダ株式会社		○	○			安芸郡

企業等	学科名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	本社地域
三浦商店			○			三原市
水 ing 株式会社				○		東京都
三菱地所コミュニティ株式会社					○	東京都
三菱電機株式会社			○			東京都
有限会社 北斗建装					○	大分県
横浜ゴム株式会社		○				東京都

(50 音順)

■表 4 平成 26 年度本科卒業生進学予定先一覧

< H26 年 12 月現在 >

学校名	学科名	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	所在地
大島商船高等専門学校専攻科			○			山口県
呉工業高等専門学校専攻科		○	○	○	○	呉市
岡山大学工学部		○	○			岡山県
九州大学経済学部				○		福岡市
熊本大学工学部					○	熊本県
千葉大学工学部					○	千葉県
豊橋技術科学大学			○	○	○	愛知県
長岡技術科学大学				○		新潟県
広島大学教育学部			○			東広島市
広島大学工学部			○		○	東広島市
三重大学工学部			○			三重県
山口大学工学部				○		山口県
京都府立大学生命環境学部					○	京都府
滋賀県立大学					○	滋賀県
長岡造形大学造形学部					○	新潟県
京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科					○	京都市

(50 音順)

1 年生担任

更なる成長を期す

機械工学科1年担任 市崎 一章



中学時代には例外なく優秀な成績を収めて本校に入学し、いざどうなるのかと不安半分で迎えた前期中間試験。その後、期末、そして後期中間を経て、さあ、今の気持ちはどうでしょうか。

初の高専祭では反省すべき点が多々あったように思います。誰かがやるだろうから自分は何もしな

くていいやという考えがなかったでしょうか？クラスメートの発表や講話を聴いた際に、私から催促されない限り質問が出ないのもその現れです。真剣に話を聴けば、質問は出なくても、せめてコメントはできるはずですね。それが話をしてくれた相手に対するマナーではないでしょうか。自分が思ったことを、口に出す。コミュニケーションはここから始まります。

4年後に就職する者も進学する者も、最終的には社会に巣立ちます。そこで求められるのは社交性です。呉高専では海外研修の機会も増えています。自分の未来を切り開くためにも、他人任せにする姿勢は止めて、もっと積極的な言動を見せてくれることを期待しています

感謝の一年

電気情報工学科1年担任 平野 旭



私の呉高専教員生活も4年半が過ぎようとしています。「ものごとに取り組み場合、3年が一つの節目」という言葉を耳にすることがありますが、最初の3年間（プラス半年）を終えたタイミングで、一年生の担任を任せていただけたのは大変に光栄なことだと思っています。

3月に開催された入学説明会の時から、素晴らしい子達が入ってきてくれることになったと直感的に感じ、LHRではあんなことをしてみたい、この子達ならきっと良いクラスがつくれると、入学式の日を大変楽しみに待ったのが、つい昨日のこの様です。

普段、「元気が良すぎる」と評価されることもあるけれど、中学校の時とは違って気の合う友人に会えたのが嬉しい裏返しだと私は思っています。自分たちで物事を相談して決めることができ、元気いっぱいな上に素直で頑張り屋で…。

本当にこれからが楽しみな学生ばかりです。残り的高専生活も良いものにして下さい。E1の皆さん、一年間素敵な思い出をありがとうございました。

C1クラス回顧

環境都市工学科1年担任 外村 彰



早いもので環境都市工学科第一学年の皆が進級する時期を迎えました。入学前の説明会で彼らに、皆との出会い＝“縁（えにし）”を大切にしながら、高く遠いところを見つめて——こうありたい自分を希望として、こうありたい自分に恥じないよ

うな——日々を歩んでゆくようにしましょうと話をしたのがつい先日のようです。

彼らは明るい個性派揃いで、当初からすっかり仲良くまとまってくれました。とくに印象に残るのは、春先の灰が峰への遠足、28人が一度にいられた保護者参観日、球技大会や体育祭、高専祭でのうどん模擬店、共に「罪と罰」を観劇した文化行事あたりでしょうか。そうして折々の指導や毎週のLHR、また私の現代文の授業などでの皆の挙措あれこれも、いま自然と“フラッシュバック”されて来ます。

これからも一人ひとりがいつも、他者の心を慮って助け合うことで、C1は一層よいクラスになってゆくと信じています。

日々の成長を大切に

建築学科1年担任 赤池 祐次



期待と不安に胸を膨らませ、皆さんが入学してから1年が過ぎようとしています。1年生の担任は初めてではありませんが、どんな子が入学してくるのかと、毎回期待と不安を抱くのは新入生と同じです。幸いにも今年度の担任の仕事はやりやすいと感じていますが、好事魔多し、調子が良いとき

ほど用心は必要なのではないでしょうか。考えてみると、1年生は呉高専での学校生活が始まったばかりと言えます。学校行事、クラブ活動、定期試験、長期休暇などを経験し、学校にも慣れ、あとは毎年そのくり返し。惰性で過ぎてしまうことも可能ですが、同じように感じられても昨日とまったく同じ日はありません。なかなかできることではありませんが、毎日僅かでも努力をくり返していくと、らせん階段を登るように、見える景色は少しずつ変化していきます。大きな枝を張り巡らせるためにはしっかりした根と幹が必要ですが、これからの人生の根と幹になるように、自分の心と体を日々少しずつ成長させていってください。

1 年生 学生

呉高専 1 年の思い出

機械工学科 1 年 北浦 一樹



高専での 1 年は、期待以上の様々な思い出が出来ました。高専祭や新しいクラスメイト、中学校とは違う高専の生活など心に残る 1 年でした。

そんな 1 年の中で一番心に残った思い出は、月曜の 5、6、7 時間目にある実習の時間です。他の一般高校では体験出来ない様々な実習項目があり、毎時間飽きることなく取り組むことが出来ました。

実習項目は 1 年生の現段階では、フライス盤、旋盤、手仕上げ、電気制御、溶接の 5 つです。この 5 つの実習項目のなかで特に好きな項目は、電気制御です。電気制御が好き理由は、身の回りの機械の仕組みを知ることが出来るからです。機械の仕組みを知れば、自分で修理をしたり機械を製作したり出来るようになるからです。

難しい内容を理解すればその分また多くの機械を理解することが出来るのでやりがいがあります。これから、さらに難しい内容を理解して思い通りの機械が作れるようになります。

これから、さらに難しい内容を理解して思い通りの機械が作れるようになります。

これから、さらに難しい内容を理解して思い通りの機械が作れるようになります。

呉高専での一年間

電気情報工学科 1 年 山本 大河



「もう 1 年が経つのか…」僕は色々な思い出が詰まった 1 年間を振り返り、こう思います。

呉高専に入学した当時、僕は毎日が新鮮で楽しさと充実を感じていました。自由な校風でみな个性的でとてもおもしろく、専門的な授業があり自分のやりたいことができたからです。しかし、入学からしばらくした頃から、自分と周りを比較して悩むことがありました。周りの人がすごくいいように見えて、自分はなんてだめだと思うようになり、自信も消えかけ落ち込んでいました。

そんなとき、部活の先輩が僕の悩みをいつも聞いてくれたおかげで救われました。さらに、クラスの友達も、いつも僕を笑顔にさせてくれました。そんな中、僕はある挑戦、危険物取扱の資格を受けることにしました。僕は、みんなの支えで努力することができ、無事合格できました。この合格が、僕の自信を少し取り戻しました。

楽しくも苦しい 1 年間でした。まだ、悩んでいる時もあるけど、皆への感謝の心を忘れず様々な事に挑戦していきたいです。

激動の一年

環境都市工学科 1 年 渡邊 芳樹



入学からこれまで本当にあっという間でした。入学した当初は、これから起こることの期待よりも、これからの高専生活をどのように過ごしていけばいいのか、という不安の方が大きかったです。この一年は私にとって長いようで本当に短いものでしたが、結果的に私を、一回りも二回りも成長させてくれました。振り返ってみると、楽しかった事、嬉しかった事、数え切れないほど沢山思い出されます。

硬式野球部に入部し、投手をさせてもらい、中学の時の野球と高校野球の技術面などの、スケールの違いを思い知り、これから高専で、野球をより一層詳しく学び勝つ、と決意したのを覚えています。

次に高専での勉強、初めて受ける専門教科の授業。測量、生命の科学などのどれもが、難しいけれどどんどん興味を湧かせてくれ、「高専の工業」を学ぶ実感をもたせてくれました。

これからの高専生活は、まだまだ始まったばかりですが、夢に向かってノンストップで駆け上がっていきたいです。

新しい生活

建築学科 1 年 有田 凱



4 月 3 日に呉高専に入学してから僕の生活は大きく変化しました。その中で最も影響したのが寮生活です。

中学 3 年の終わりごろ、呉高専に入学を決めた僕は、喜びとともに「寮生活」という不安も感じていました。しかし、いざ入寮すると毎日友達という気分で不安の気持ちはすっかり消えました。時には、ミーティングで怒られることもありましたが、楽しいことのほうが多かったので、寮に入ってよかったと思います。

また、クラブは中学の時と同じく、陸上競技部に入部しました。僕の中学の陸上部はここほど真面目にやる部活ではなかったので、合宿や普段の練習など、正直キツイと感じることがよくありました。しかし、キツイからこそ達成感や充実感もあり、合宿など経験したことなかったので、陸上競技部に入ってよかったと思います。

来年は後輩ができるので、今まで以上に努力していきたいです。この 1 年で社会に近づいた気がします。

2 年生 担任

1年を振り返って

機械工学科2年担任 平松 直哉



1年のときからの担任なので、ここでは関わった2年間を振り返りたいと思います。皆さんと最初に顔合わせをしたとき、私はとても緊張をしていました。高専生活への期待と不安に満ちた皆さんの表情を見て、担任としての責任の重さを感じていたからです。しかし実際はそんな気負いは全く必要なく、各自が学校生活を送る中で、一生懸命に打ち込めるものを見つけ、高専祭などではクラスで団結することができました。球技大会での優勝はよかったですね。

「めりはりを付けること。」話を聞くときは聞く、だからだし、そして騒ぐときは騒ぐ、私が一番言っていた言葉だと思っています。皆さんの中には勉強以外にも、部活動で中心的な役割を果たしたり、学外の活動に取り組んだり、海外に飛び出したりする人も出てきました。「やりたいこと」をしっかりとするためにはそれ以外の「やりたくない」こともしっかりとする必要があります。そんなときこそ「めりはり」でやりたくないことをさっさと終わらせて、自分のやりたいことに思いっきり時間を使っ

て下さい。M2の皆さんの更なる活躍を期待しています。

1年を振り返って

電気情報工学科2年担任 外谷 昭洋



3月になり、学生それぞれが新しいステップに進む時期になりました。担任を持たせていただいたE2のクラスでは、1年生と比べて勉強の内容

も専門的になり、将来のことも意識するようになり、それぞれがいろいろと考えながら1年間を過ごしてきたと思います。

私としては、担任として初めて受け持ったクラスでしたが、クラス42人に支えられながら、1年間を過ごしてきました。時には厳しい言葉を掛けた時もありましたし、きつく接した時もありましたが、みんなの夢に少しは近づけたのではないのでしょうか。

いつもは、ひとりひとりが輝く個性の生きたクラスでしたが、まとまるときにはまとまり、高専祭などで、みんなで一つになって動く姿がとても印象的でした。

最後になりますが、ときには真面目に、ときには楽しくにぎやかな良いクラスだと思っています。クラスの雰囲気をこのままに、これからも呉高専でたくさん思い出を作って、成長していきましょう。

2年間の担任を振り返って

環境都市工学科2年担任 北村 光一

私は、2年環境都市工学科担任の北村光一と申します。このクラスは、2年間持ち上がりで担任をしております。

今振り返ってみますと、主な学校行事として、入学式をはじめ、大和ミュージアムの見学、高専大会、高専祭の模擬店（1年は豚汁、2年は軟骨の唐揚げ）、除草作業、球技大会、高体連などが行われ、2年間、生徒と共に、充実した学校生活を送ることができました。

1年次はバラバラでまとまりがなかったクラスは学年が進むにつれ、協調性とまとまりができ、クラス全員が一生懸命に学習やクラブ活動に取り組んできました。



2年環境都市工学科数学授業風景

この良き日を迎えることができたのは、クラスの生徒が一人一人しっかりと目標を持って取り組んだ結果だと思っています。

今後はさらに、2学年から3学年へ進級することでより専門的な学習を積み重ねて有意義な学校生活を送ってくれることを願っております。

自ら楽しむ建築2年生

建築学科2年担任 下倉 玲子



これまで3年生しか担任をしたことがありませんでしたが、今年、始めて2年生、つまりは低学年の担当となりました。色々ところが指導しなければならぬのかなと思っていましたが、さすが高専生、1年ですっかり自分たちで何でもできるようになっていました。日常的な掃除や週番の業務、高専

祭や他イベントの係りなど、安心して任せられました。

色々なことに取り組むことも建築学科2年生の特徴で、海外留学、設計製図競技、英語のプレゼンテーション大会など、チャレンジしただけでなく良い結果を残した学生がたくさんいます。モノづくりに対しても積極的で、材料さえあれば、さささっと造ってくれます。ロングホームルームでは、2Aオリジナル椅子取りゲームや英語でヨガなど変わったことをしましたが、みんな素直に楽しんでくれてうれしかったです。

チャレンジ大好き、モノづくり大好きで楽しむことが好きなみんなが、社会に出て様々な分野で活躍することを今から夢見ています。

2 年生 学生

陸上と勉強

機械工学科2年 小川 黎真



今年度は部活でも学業でも心残りな年でした。

陸上部では、夏の県高校総体も秋の県高校新人大会も県高校駅伝もまわりとは違い自分だけ残されたように感じました。夏休みの練習でしっかり長距離を走ってなかったことが悔やまれます。

勉強面では、自分が「Mazda」に行きたいという自分の進路が明確になったのでこれから「何をすればいいか？」を考えると、やはり大学院を目指す必要があると感じました。「Mazda」は近年「鼓動デザイン」と「クリーンディーゼル」を掲げて車を創っていて新しく出る車はヨーロッパで魅力的で刺激的です。そのような車が地元広島から放出されているということに私も誇りをもち会社に入社して先駆者になりたくなったのです。しかし、今年度は自分で大学へ行くための情報を把握する時間が足りませんでした。

来年度は、この二つの反省点を活かして勉強面・陸上面ともに文武両道で頑張っていきたいと思います。

二年目に得たもの

電気情報工学科2年 大町 惇



僕がこの学校に入学してからもう二年がたち、もうすぐ三年目を迎えることになるが、この二年間で様々な人や物に出会い、物事の方や価値観が変わってきたと感じる。

入学して一年目は様々なことに驚き、また様々なことに挑戦し右往左往しているうちに過ぎてしまったが、入学して二年目となったこの一年間で、僕は物事を多角的にとらえることができるようになったと思う。物事には様々な側面があり、そのとらえ方やそれを見る人によってそれは多様に変化するのだ。将来自分が何をしているか、何をしたいかということはまだ自分にはわからないのだが、さまざまなことに対処できる柔軟性はきっと必要になると思っている。

普通の高校ならもう進路を決めていなければならぬところで、今から目標を探るのではきっと遅いのだろうが、幸い僕にはまだ時間的な余裕があるようなので来年からゆっくり目標を探りたいと思っている。

充実した1年

環境都市工学科2年 島村 柚香

この1年は、多くの人たちと出会いにより、自分の知らない事をたくさん知ることができました。

入学した頃は、会話をすることが苦手で自分から話しかけることができませんでした。しかし、寮の先輩方が笑顔で優しく話かけてくれたおかげで、私は人と楽しく笑顔で話せるようになりました。先輩方は、私にはないものを持っており、私も先輩方のようになりたくて、1年間自分なりに「笑顔」でコミュニケーションをとることを意識して生活してきました。

その結果、寮の先輩方や部活の先輩、クラスの人たちからたくさん話しかけてもらえるようになりました。特に、先輩方には、生活面、勉強面、就職についてアドバイスをいただき、将来のことを真剣に考えるようになりました。また、クラスの人たちとは、行事や環境都市工学科ならではの実習を以前よりも意欲的に取り組めるようになれました。

1年間がとても早く感じました。一日一日がとても充実していたと思います。私は、3年生になっても多くの人たちと楽しくコミュニケーションができるよう「笑顔」を忘れないようにしたいと思います。

新たな自信

建築学科2年 前本 将志/伊藤 健太



co-baのプロジェクトは私たちのこれらにとつて大きな経験になったといえるだろう。それは今までの私たちがしてきた経験と大きく違う点があったからだ。

今回のプロジェクトは実際に人が使う空間をデザインし、変えるというもの。社会の中でたとえてみれば一種のリフォームの様なものだった。とてもスケールが大きかったためかこのプロジェクトに参加した時、自分達にこんなことが出来るのかという多少の不安もあった。だが、実際に任せられた仕事を全うし、完成したものをみて自分達の想像をはるかに超えていたとき、それは大きな自信に変わっていた。また、自信と共に自分達にこんなものが作れるのかという驚きが同じように感じられた。

私たちはそれまで何かを作るといっても、自分達の中心のものを作ることが精一杯だった。しかし、今回は学校という公共機関のスペースを作る、自分のものではなく、学校という社会の中の一つの空間を創り出した。社会へと踏み出したことが大きな自信へと繋がったのだ。

3 年生担任

卒業生への祝辞を通した M3 学生への研鑽の呼び掛け

機械工学科3年担任 山田 宏



ステップキャンパスを始め、様々な行事等により、M3 学生への進路指導の時間に制約を受けましたので、先輩である卒業生への祝辞を通して、今後の進路選択に役立ち、また、研鑽の糧と成ることを願って認めます。

今次の卒業生は、2年間の担任を通じて進路指導した甲斐あって、約十名もの専攻科進学を果たすと言う、科創設以来の快挙と成り、感慨も一入です。専攻科では、研究開発に必須の英語や解析法、最先端工学の講義を通して、学力キャリア向上を図りたいと考えています。将来への饒として、皆様は、私が発案し、遠藤一太前校長の主導の下、全教員が協働して実践して来た、高等教育機関で唯一の「全科目ESD（持続発展教育）」を、在校中を通して授けられた、初めての卒業生です。当該教育は、遠藤前校長の卓越した学校運営により、昨年の外部評価で「優れた特色ある取り組み」として高い評価を受けた、本校での特筆すべき栄誉です（H26.4.1 付呉高専日誌）。これを誇りに、技術開発や環境保全、国際貢献等に努めて行って下さい。

夢をかなえる方程式

電気情報工学科3年担任 上杉 裕子



今、みなさんはご自分の夢の実現に近づいていますか？私ごとですが、私は大学院を修了した後、夢であった研究職に就くことができず、チャンスを待ちながら12年間、高校教員をしていました。いつまでも夢を追いかける私に、周囲は研究職の夢よりも現実を見て高校教師として生きていくほうが

いいとも言ったほどです。

しかし私は夢をあきらめたくありませんでした。何度も研究職公募にチャレンジしては失敗を繰り返しました。そんなとき、自分を励ます言葉として、ずっと信じていたことがあります。「夢はきっとかなう。夢は見るのをやめたときに、夢でなくなる」のだと。

そしてついに呉高専で研究職につく夢がかなったのです。そこで、私は自らの経験の中で得たこの方程式を皆さんに贈りたいと思います。

「夢をあきらめないこと+努力を重ねること=夢の実現！」みなさんどうか一度しかない人生、妥協することなく、夢をあきらめずに歩んでください。

良いクラス

環境都市工学科3年担任 三村 陽一



1年の技術者入門や2年の実験実習を担当しましたが、その時の様子を見て非常に良い印象をこのクラスに抱いていました。ですので、担任が決まった時に「やった！」と率直に思い、他の先生からも「いいなー」などと言われていました。担任となって1年が経過し、その良い印象は現在も変わりません。

担任をしていて困ったことはほとんどなく、優れた素質を持つ学生がたくさんいる本当に良いクラスの担任を受け持つことができました。それだけに、信頼できる担任であったかなどを振り返ると、至らない点が多々あったと思います。こうした点をしっかりと反省して、今後の教育活動の糧にしたいと考えています。

4年に進級すると、いくつかの授業を担当しますので、今から楽しみにしています。このクラスの学生は非常に高い素質を持っていますが、まだまだ成長途上です。心身ともに、今が一番成長するときです。ぜひ、充実した高専生活を送ってほしいと願っています。

真摯な態度と来年度への期待

建築学科3年担任 岩城 考信



この1年、大変恵まれた担任生活を送ることができました。それは、学生達の誠実な人柄と前年度までの担任の外村彰先生の指導のお陰です。とりわけ多くの学生の勉強や課題に対する真摯な態度には感心しました。

また、球技大会、体育祭、ステップキャンパスでの野呂山遠足、高専祭での模擬店（ベビーカステラ）など、多くの学生が主体的に活動してくれました。ベビーカステラは、協力しあいながらレシピを考え、調理し販売していました。その成果もあり、味も昨年度のものより美味しかったです。

来年度は4年生になり、進学と就職のどちらを選ぶのか、といった進路についてより真剣に考えなければなりません。どこで学ぶのか、あるいはどの業種で働くのか、多くのことで悩むと思います。だからこそ、自主性を持って学び、考えて欲しい。そして積極的に、我々教員に相談して欲しいと思います。もちろん協力は惜しみません。さらなる、より良い学生生活を期待しています。

3 年生 学生

設計製図

機械工学科3年 有尾 隆宏

3年生のカリキュラムには設計製図という科目がある。この科目の前期は4つの課題のうち、1つを選んで設計し、グループの中で最も優秀で実現可能なものを後期の総合実習で製作する。

私は4つの課題の中から卓上フライス盤を選んだ。最初、どんな機構を用いるのか、いろいろ計画を練ってから設計に取り掛かる。

しかしこの時点でちょっと無茶なものを考えてしまった。そのため、想像以上に複雑で多量の部品が必要であった。締切が迫ると、部活から帰ってから日付が変わるまで製図をし、休講になった日は朝から晩までずっと製図づけだった。何とか締切には間に合ったものの、部品が多すぎるため、採用されなかった。自分でも作りたくないような複雑なものを書いたのでむしろよかったが。

自分の力量を考えながら計画を練り、計画通り進行させるのは難しいと痛感した。将来仕事をするとき、必ず納期というものがあるのは立ちはだかるだろう。時にはこだわりを捨てなければならぬかもしれない。

しかしこんなにも自由に考え、長時間かけた製図は本当に楽しかった。自分の時間を惜しんででも自分の作りたいものを書いていきたい。

実験を通じて

電気情報工学科3年 宗像 俊



電気情報工学科3年生では、コンデンサの過度現象やダイオードの整流作用といった電子部品の特性を理解するための実験などを行いました。

この1年間に行った実験を振り返ってみると、初めて扱う計器や素子も多く、戸惑いながらする実験ばかりでした。しかし、ノイズ

を減らすための絶縁回路の構造や電力の送電の変換に欠かせない変圧器の原理など学ぶことができ、自分自身のスキルの向上につながった大事な時間でありました。

また、実験で理論に沿わない失敗をいくつもしましたが、何故失敗したのかを考察することで失敗をいかすことができた1年間でもありました。

卒業まで残り2年、ここで学べる時間を大切にしていき1年後の自分が納得いくような高専4年生をおくること、自分の世界にとどまらず視野を大きくしていくことを心掛けていきたいと思っています。

一年を振り返って

環境都市工学科3年 中村 賢吾



この一年を振り返ると、いろいろな行事がありました。今年は体育祭などの行事の他に、ステップキャンパスなどの3年生だけの行事が

たくさんあり、少しあわただしい一年でした。

特に呉高専50周年記念体育祭は、毎年行われていた球技大会と違い、50周年リレーや棒上旗奪い、騎馬戦、綱引きなどの競技を含めてたくさんの種目で学科ごとに競いました。

それぞれの学科が応援用の旗を作り、応援も例年より力を入れて学科全体が学年に関係なく精一杯の応援で体育祭を盛り上げていたように思います。

3年生はステップキャンパスのある学年で二日間にわたって、料理対決、討論会、山登りをしました。

討論会では、みんなそれぞれたくさんの意見を出し合い、最後は意見をまとめて、他の班で出た意見などを観覧する時間があり、他の班の意見などを見ながら自分の班の意見交換を振り返ることもできました。

ステップキャンパス

建築学科3年 矢野 明日香



3学年でしか経験できないイベント、ステップキャンパス。今まで他学科との深い交流がなかったため、たくさんの人と知り合い、仲良くなれるとても良い機会となりました。

くじで決めた4学科混合のチームで一日目は料理対決と討論会、二日目は野呂山登山という日程で行いました。一日目の料理対決と

討論会では、今まで全く話したことのない他学科の人と楽しく話しながら役割分担を決めたり、お互い意見を言い合うことで他学科の人たちのことを知る良い機会となりました。二日目の野呂山登山では、今年は学校から野呂山まで歩くという過酷なものでしたが、チームで声をかけあって協力しながらなんとか登りきることができました。

私はステップキャンパスを通して、友達との協力の大切さを再認識しました。このステップキャンパスで知り合えた他学科の友達とこれからも仲良くし、そこからまた他学科の友達を増やしていく良い機会になればいいなと思っています。

4年生担任

1年を振り返って

機械工学科4年担任 深澤 謙次



昨年度の機械工学科3年に引き続き、今年度機械工学科4年の担任をさせて頂きました。2年生のときは何かと話題に上ったクラスでしたが、学生も少しは大人になって落ち着いてきたのか最近はそのようなこともなくなり、担任としてホッとしております。

クラスとしての今年度の大きなイベントは、夏休み中のインターンシップと秋の特別見学旅行でした。インターンシップには合計30名が参加し、民間企業や公的機関での職場体験をしました。参加した学生にとっては、来年度の進路の選択の際の参考になったと思います。特別見学旅行は、今年度から方針が180度変わり、10年振りに国内の旅行となり、今年度初めて鹿児島に行きました。出発に際してはトラブルもありましたが、結果的には思い出に残る楽しい旅行になったと思います。このままクラスの全員が5年生に進級できることを願っています。

進路はどうする？

電気情報工学科4年担任 板東 能生



昨年4月より4年ぶりの担任をやっています。今回の4年生は、良く言えばマイペース？で少し緊張感が足りていません。クラスの雰囲気ものんびりしているので、やはり厳しさに欠ける面があるように思います。それからなんとなく漂う勝負弱い雰囲気！自分でも「力を出し切れていない」と感じる

ことは多いのではないのでしょうか。閉じた人間関係と日常の中で、「もう少し何かに挑戦してみたら」と思うことが多いです。

もうあと少しで人生が決まります（半分くらいは）その緊張感が足りないのはどうしてでしょうか。自分は将来どうしたいのか？そのために必要なことは何なのか？今やりたいことは何か？やるべきことは何か？きちんと優先順位をつけてこなしていきましょう。

進路について

環境都市工学科4年担任 重松 尚久



インターンシップ、研修旅行、高専祭が終わり、4年生にとって（人によっては人生の中で）一番大切な時期になってきました。来年度から就職試験の時期が大きく後倒しになるため進路決定に戸惑いを感じている人も多くいます。よく学生からいい就職先やいい大学はないですか？という相談を受けます。

担任にとってこれは一番難しい相談です。まず、進路選択のためにやるべきことは、自分を色々な側面から分析して、自分をよく知ることです。その上で、自分の適性などについて理解した上で、社会や職業について理解し、自分にふさわしい進路を選択しなければなりません。今年度はOB・OGにお願いして業界の説明会や現場見学会など積極的に行ってきました。また、インターンシップでの経験も自分の進路を考えるいい機会になると思います。自分の興味・関心や能力適性、社会の仕組みや自分の果たすべき役割などについての認識を深め、その実現に向けて努力を続けてほしいと思います。

大事な2年間の中間点

建築学科4年担任 大和 義昭



私は主に4年生以上の授業を担当しているので、昨年春にこのクラスの学生と話したのはほぼ2年ぶりでした。最初は私も（学生達も）遠慮気味に話をしていたのですが、最近は課題提出の期限や進路に関する指導のときなど、ついつい小言をこぼしてしまいます。「言うことがお父さんみたい！」と

言われるのは年齢的に仕方がないことですが、「お母さんみたい！！」と言われたこともありました。

このクラスの学生達には、欠席や遅刻の多さなどイタイところもありますが、復活した「体育祭り」で初代王者になってみせた瞬発力や「特別見学旅行」中にわずかな時間を見つけて楽しむバイタリティー、「高専祭の模型作り」の最後にみせた結束力など魅力もあります。

このクラスの何人かは採用スケジュールが大きく変わる最初の年に就活に挑みます。進学を希望する学生にも影響がないとは言えません。不安がる学生をみると少々気の毒に思うこともありますが、各自が持ち前の魅力に磨きをかけて立ち向かって欲しいと思います。

4 年生 学生

研修旅行の思い出

機械工学科 4年 岩崎 雄大



4年生の一番大きなイベントは、やはり、研修旅行である。

私たちの研修旅行は、鹿児島県の指宿で砂風呂体験やJX石油基地の見学、種子島上陸、知覧特攻平和会館見学、鹿児島市内の散歩などであった。特にJX石油基地では、職員の方に説明解説していただき、石油基地の広さに圧倒され、さら

に、原油タンクは、高さが7階建てのビルと同じくらいで、直径が100mあり圧倒され少し怖いように感じた。日本を支える石油基地という施設を見学できうれしかった。

鹿児島市内散策では、城山の展望台から鹿児島県のシンボルである巨大な桜島と鹿児島市の街を一望することができた。桜島の大きさに圧倒されたものの不思議と怖くなかった。一日目は、砂風呂で、二日目からは、毎晩のようにホテルの大浴場で友達と疲れを取り、広島とは違う街の独特の雰囲気陶醉し、ちょっと高かったけど鹿児島ならではの美味しいものを食べ、気の合う仲間とはしゃいだ思い出は、お金では買うことのできない、唯一無二の宝となった。

イベント

電気情報工学科 4年 紙田 寛人



球技大会ではソフトボールで5Cと戦い引き分けてじゃんけんで勝敗を決めることになり、先に5勝した方が勝ちというルールで5連敗し敗北しました。来年はソフトの練習よりじゃんけんの練習をした方がいいと思います。

体育祭りは今年から始まった行事なのでグダグダしていましたが、

リレーで我ら4Eの担任&元陸上部の板東能生先生の走る姿を見ることができたので満足でした。

研修旅行は東京に行きました。新幹線で照明工学の本を読んでいるK君や、深夜にホテルで大量のスイーツを食べるNさんなどクラスの個性が光る旅行でした。

高専祭ではとん汁を炊いてなかなかの利益を得たり、ライブしたりプロレスしたりして、みんな楽しんでいました。駅伝大会では今年からの新戦力も加わり、4位入賞することができました。おしることきなこもちもおいしかったです。とても充実した1年間でした。

高専祭を終えて

環境都市工学科 4年 加藤 元

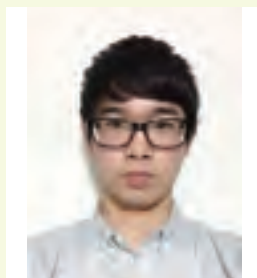


高専に入学してから5度目、高専祭実行委員になって3度目、留年生になって2度目の高専祭が終わった。1、2年生の時はただ模擬店を頑張って終わる行事だったが、高専祭実行委員に入り自分達が準備、企画することによって高専祭に対する姿勢が180度変わった。さらに今年はステージ企画を

担当する部の部長となり、責任感を抱え準備し本番を無事成功させることができとても充実した高専祭になった。生徒の力で創り上げる高専祭は沢山の人が関わることができ、高専祭を成功させるためだけでなく自分自身を色々な面で成長させてくれた行事だったと思う。私は今年卒業しますが来年の高専祭も4年生以下のみなさんの力で成功させてほしいと思う。と、言うように高専祭での頑張りを勉強の方にも注いでいきたいと思う。みんなが一つになれる球技大会はやっぱり最高だ。

5年生になるに向けての準備

建築学科 4年 三島 大輝



もうすぐ4年生も終わり、就職・進学とで大変忙しくなる時期がやってくる5年生へととなります。本来ならば、4年生の12月や1月から就職活動は始まっている時期でした。しかし、来年度から就職活動の方式が変わり、就職活動開始の時期が12月から3月へと延びることになりました。実質、僕

たちの学年がその方式初めての学生となるので先生たちも今後どうなるかわからないし、企業の方々もどう動いていくのかというのがつかめない状況になっています。その中で、僕たちは企業の方々が行っている準就職活動のようなセミナーだったり、一日限定のインターンシップなどに参加したり、わからないことがある分積極的に活動を行っていました。僕は進学希望なので関係のない話だと思っていたことも、いずれ就職する時はこのような活動を真剣に行っていきたいなと思いました。その上でまず僕は大学の情報をより多く集め、自分にあった大学を選んだり、その大学進学の準備をしたり頑張っていきたいなと思った一年間でありました。

専攻科担任

はじめての専攻科コース担任

機械電気工学専攻・機械工学コース担任 吉川 祐樹



今年度は、昨年度本科5年を卒業した専攻科1年生3名と2年生8名の専攻科コース担任という、非常にやり甲斐のある役職でした。本科の担任は1学年ですが、専攻科のコース担任は2学年を見なくてはならず、本科の4、5年生を同時担任するような感覚でした。

年度が始まると専攻科1年生はインターンシップ、2年生は就職活動が本格化します。インターンシップ、就職活動ともに本科の学生とは異なり自分で積極的に進めることが要求されるため、内心は心配していた部分もありますが、1年生のインターンシップ、2年生の就職活動ともに見事にそれぞれやりきってくれました。

全員のインターンシップや進路先が決まりほっとしたのも束の間で今度は研究が本格始動し、各研究室の指導教員のもとそれぞれの研究活動が始まりました。2年生のみなさん、学会発表と卒業論文発表お疲れ様でした。そして、卒業おめでとう！！

今年度の専攻科1年生

機械電気工学専攻・電気情報工学コース担任 横沼 実雄



今年度の専攻科電気コース1年生は3名しかいないため、コース担任としては楽なのですが、講義中などは少々寂しい様な気のするクラスです。この3名のクラスを一言で言うと、「ムチャ振りの利く奴ら」と言ったところでしょうか。例年、専攻科の1年生は講義時間も多し上、特別実験、インターシッ

プ等々で忙しいのですが、今年度は50周年記念行事に向けてスカイツリー模型製作（組込マイコンを使った電飾担当）も加わり、かなり忙しかったはずですが、にも関わらず私の担当科目では「ソーラ・パネル使って携帯の充電ステーション作ってみよう」とか、「ブラシレスモータを作ってみよう」とか、かなりのムチャ振りをしたのですが、ブツブツは言いながらも三者三様に頑張っています。今の2年生含めて、他の年だとうはいきません。必ず逃亡者、脱落者が出てきます。

ムチャ振りされても真摯に頑張る姿勢を、今後も忘れずにいて欲しいと思う担任なのでした。

学科を越えたエンジニアリング・デザイン演習

建設工学専攻・環境都市工学コース担任当 河村 進一



呉高専50周年記念式典の会場で、3Dプリンターで作製した東京スカイツリーの模型を展示しました。この模型は前期週4時間の授業科目の中で専攻科生が作製したものです。作る前から学生たちの間で、50万円以上かかるのではというような根拠のない金額が飛び交ったり、意思疎通がうまく

いかなかったりして、大変な作業の連続でした。最終的には何人かの学生の最後の踏ん張りもあり、製作費も想定した予算の範囲内で、立派なスカイツリーを展示することができました。

呉高専の授業は学科ごとに行われていて、学科混合で行われる授業はほとんどありません。専攻科の授業もほとんどが4コース別々に行われ、他学科の学生との協働作業が少ない環境です。しかし、社会に出て新しいモノを作ろうとすると、1人では良いモノはできません。別の視点を持つ人とのコラボレーションが必要です。呉高専の専門は比較的に狭い分野ですが、学科を越えたモノづくり教育は呉高専初でした。この経験が将来何かの役に立つはずですが。

コース担任として思うこと

建設工学専攻・建築学コース担任 仁保 裕



専攻科コース担任の役目は、専攻科生に自身の進路を勝ち取ってもらうことです。勝ち取ってもらうまでに設けられたいくつかのハードルを越えるためのアドバイス・指導を行うことがコース担任の日々の仕事になります。

このハードルですが、就職・進学先を決める、学位授与試験に合格する、研究発表を行う…等々、2年間に数多く詰め込まれています。専攻科生は忙しく、ウカウカしていると確実に留年します。

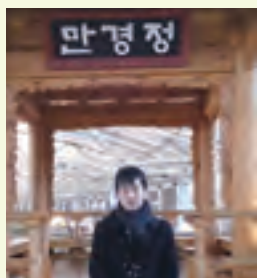
上記のように書くと、「コース担任って大変だな」と思われるかもしれませんが、今年度も専攻科生たちが自ら動いてくれたため、建築のコース担任は楽をさせてもらっています。自ら動く姿勢が確実に身に付いている様を見るたびに「さすがは専攻科生」と思います。専攻科を卒業した後もこの姿勢を大切に育ててほしいと思います。

最後になりますが、建築学コース2年生の4人、卒業おめでとう。世間は荒波ですが、専攻科での経験を胸に抱いて自分を信じつつ、かつちり働いてきっちり稼いでください。

専攻科学生

初めての国際学会

機械電気工学専攻1年 寺本 慎



昨年4月に専攻科に入学してから、早くも1年が経過しようとしている。本年度は3Dプリンタによる東京スカイツリーの再現作業もあったが、なにより初めての国際学会など研究活動で充実した1年だった。

私は、12月初旬に韓国スウォン市にて開催された KJMW 2014 (Korea-Japan Microwave Workshop 2014) に参加させていただいた。多数の聴講者に対して英語で発表することに緊張していたが、自信を持って発表することができた。ただ英語の質問に対する回答が上手くできなかった。韓国側の学生の方々は、英語の質問に対しても対応できていたので、今後、読む・書く・聴く・話す、全ての英語力を向上させなければならないと痛感した。

本年度、国際学会で発表できたことにより、自身の研究へのフィードバックは然ることながら、今後別の国際学会で発表するときのための良い経験を積むことができたと思う。あと1年、この経験を糧にして精進していきたい。

インターンシップ

建設工学専攻1年 山田 萌子



8月中旬の2週間、私はインターンシップで呉市役所都市部都市計画課へ行き、文字でしか理解していなかった「まちづくり」の基礎を改めて理解する事ができた。

特に印象に残ったのは、用途地域の変更案を考えたことである。用途地域は、建てることのできる建物の種類や制限が決まっている

ため、変更するには周辺の状況を適切に判断し、容積率や建物の高さなど様々な条件を考える必要がある。このように、一定のルールに基づいて市が決定・管理し、「まち」を形成させているということを実感した。

また、学校で学んだ用途地域の内容と実務が繋がり、改めて理解することが出来たと同時に、ただ覚えるのではなく、知識として定着させ、自分のものにしていこうと思うようになった。

あと残りの学生生活も1年である。この1年有意義に過ごすためにも、この2週間を忘れず、1日1日を大切にしていきたい。



入学式 (4月)



おもしろ科学体験フェスティバル (6月)



イングリッシュラウンジ (4月~)



2014 高専女子フォーラム (12月)

平成 26 年、呉工業高等専門学校は創立 50 周年を迎えました。そして、去る 10 月 25 日（土）、呉市文化ホールにて記念式典および記念講演会を開催し、併せて、記念祝賀会を呉阪急ホテルにて行いました。記念式典には、文部科学省など各界からの多数のご来賓の方々をはじめ約 1,500 名のご臨席をいただき、厳粛ななかにも力強く、次の半世紀に向け、決意を新たにいたしました。引き続き、東京スカイツリー監修者である澄川喜一先生による記念講演が 50 周年に花を添えてくれました。祝賀会にも 230 名あまりのご出席をいただき、半世紀の節目の年を盛大に祝い、次の半世紀に向け新たな第一歩を踏み出しました。

呉高専創立 50 周年

式 辞（抜粋）

校長 森野 数博

呉高専が産声を上げた昭和 39 年、日本は東京オリンピックに沸き立っていました。技術の進歩も目を見張るものがあり、活況を呈するなかで呉高専は誕生しました。爾来 50 年、6,870 名に及ぶ優れた人材を送り出し、我が国の高度経済成長を支える中心的役割を果たしてきました。しかしいま、さらなる変化が予想される社会状況に対応し、これからの半世紀を生き残るため、呉高専では学生を“世界目線”の技術者へと孵化させる「地域発・インキュベーション型教育」を推進し、多様性を涵養することにより、「ひとつ高い目線や意識をもつ高度なものづくりの中核技術者」を輩出するとともに、「社会を変える人材」をも育成すべく、専攻科の改組も含め、鋭意教育改革を進めているところです。

「Realize Your Dream」これが、呉高専が社会に対して行っている約束ごと。本校が恵まれた地域に立脚していることをいま改めて思い起こし、日本のものづくりの拠点としてそれにふさわしい人材を輩出し、人類の未来に貢献したいと考えています。＜全文は本校HPに掲載＞



記念講演会の様子

記念式典・講演会の様子

事務部長 愛場 優治

13 時 30 分、森本久美子さんの第一声で始まった記念式典。ご来賓、学生、教職員あわせて約 1,500 名が参加した呉市文化ホールで厳かに幕が開きました。歴史への感謝と未来への誓いを述べた校長式辞の後、文部科学大臣の祝辞をはじめ、ご来賓の方々から、今までの労いと今後の期待など熱いメッセージをいただきました。本当にありがとうございました。また、校歌斉唱では、学生 3 人、教職員 1 人が代表としてステージでその美声を発揮していただきました。

記念式典が終わり 14 時 30 分から東京スカイツリーのデザイン、監修者である澄川喜一先生から、ご講演をいただくとともに、2020 東京オリンピックでの活躍を期待するなど激励もいただきました。

当日は天気も良く式典日和。次の半世紀に向け、いいスタートとなりました。今回の事業に当たっては、多くの方々のご協力や励ましをいただき無事に開催することができました。関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

Realize your Dream 君には人々の夢を叶えて欲しい！



校歌斉唱



文部科学省専門教育課長



高専機構理事長



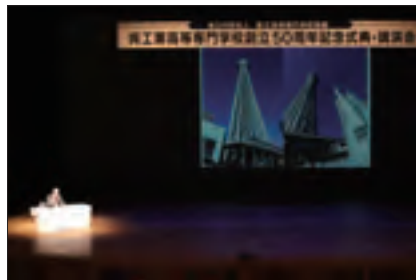
呉市長



広島大学副学長



会場全体



記念講演会



澄川先生



東京スカイツリー（模型）の前で



祝賀会鏡開き

スカイツリー、記念式典について

3Dプリンターによるスカイツリーの製作

専攻科エンジニアリングデザイン特別企画

環境都市工学分野准教授 河村 進一

専攻科の2専攻4プログラムの学生が取り組む企画として、東京スカイツリーの模型製作に挑みました。半年間という限られた授業時間の中で、模型の仕様策定から、試作、模型製作まで行い、50周年記念式典・講演会の会場入口に設置しました。縮尺1/300、高さ2m超の巨大かつ精巧な模型は、最新の3Dプリンターやレーザー加工機を使用して製作しています。

※各プログラムの特色と専門性を活かし、以下のように分担しています。

- <機械系> 3Dプリンターによるツリー本体製作
- <電気系> LEDイルミネーション「時を刻む光」
- <環境系> 地理空間情報利用による周辺地形模型土台
- <建築系> スカイツリータウン建築模型製作



エンジニアリングデザイン授業風景



スカイツリー模型

呉高専ブランド品の開発

3Dクリスタルペーパーウエイト

デザイン：建築学分野教授 間瀬 実郎

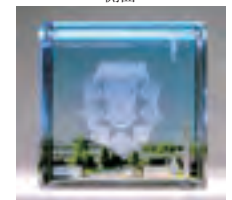
呉高専の象徴である校章、ロゴマーク、正門からみた校舎、そして“Realize Your Dream”を一辺5cmの立方体にデザインしました。空間内に彫り込まれた3Dオブジェクトは一見して何の形かわかりません。しかしある決められた視点から見ると校章が現れたり、ロゴマークが現れたりします。「努力をかけなければ真実は発見できない」ことを、ものづくりの難しさと面白さを通して表しています。手のひらに乗る立方体の小宇宙に、呉高専の歴史と未来が凝縮されたデザインです。



3Dクリスタルペーパーウエイト



側面



正面

ニュース & トピックス

コンテスト全国大会出場報告

広報室

第25回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(10/18～19 一関文化センター(岩手県)) 出場

1年生(電気情報工学科 菅 健一郎、谷口敏弘、安岡健太)3名のチームで競技部門(高専59、国内大学3、海外大学5 計67チーム)へ参加しました。

予行演習ではプログラムが動作しない不具合があり、初日の成績は振るいませんでしたが、敗者復活戦で準決勝まで進出することができました(準決勝で惜敗)。



全国高等専門学校デザインコンペティション2014 in やつしろ(11/8～9 八代市総合体育館(熊本県)) 出場

全国高専デザコン2014は、構造デザイン部門に学内選抜を勝ち抜いた2チーム、空間デザイン部門では予選を通過した3チームが出場しました。同時開催された三次元デジタル設計造形コンテストも1チームが本選出場しました。惜しくも入賞は逃しましたがレベルの高い競技となりました。



アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2014全国大会(11/23 両国国技館(東京)) 出場

ロボコン部から「大和(棟居、上本、香川)」「星龍(鐘ヶ江、道本、白石)」の2チームが地区大会に参加し、「星龍」の斬新なアイデアが認められ、推薦校として4年ぶりに全国大会出場を果たしました。

全国大会は、選手3名とピットクルー5名(藤井、上本、石井、山下、本多)で参加し、初戦で惜敗はいたしました。来年度に繋がる健闘ぶりでした。



全国国立高等専門学校3Dプリンタ・アイデアコンテスト(12/19 仙台市情報・産業プラザ)「奨励賞」受賞!

本校から2チーム(Aチーム「作品名: アクセサリー型イヤホン」、Bチーム「作品名: スプレッド型ハイブリッドメモリセット」)が参加し、Aチームが奨励賞を受賞しました。夏休みからアイデアを練り、直前まで改良を重ねた結果の受賞です。更なるチャレンジに期待しています。



第8回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(H27 1/24～25 オリセン(東京)) 2位入賞(プレゼン部門)

本校から、スピーチ部門及びプレゼンテーション部門に参加しました。スピーチ部門は、機械工学科2年 秦直輝が地区大会を1位で通過し、本大会に参加しました。惜しくも入賞は逃しましたが、大健闘しました。プレゼンテーション部門は、建築学科2年 植田雅人、白数夏生、宮本皓章の3名のチームで参加し、「Ancient Technology Living in Today's Society」というタイトルでプレゼンテーションを行い、結果全国2位を獲得しました。

※オリセン: 国立オリンピック記念青少年総合センター





技術者の国際性を育む仕組みづくり

国際交流室

本校では、国際的に活躍できる技術者を育むため2009年4月に国際交流室を設置しました。専門技術力をバックボーンとしてグローバル視点で物事が考えられる「スマートエンジニア育成」構想を掲げ、「世界を知る」・「世界と対話する」・「世界に挑戦する」を世界に羽ばたく3つのステップと位置付け、低学年・高学年・専攻科の各学年に応じたプログラムを用意し活動に取り組んでいます【下図参照】。

低学年を対象にした「世界を知る」では、世界に興味を持ち、



日本と世界各国の文化・習慣の違いを理解している状態を目指しています。プログラムとして、協定校である中国大連大学との異文化交流（26名参加）、ネイティブの先生による英語を使ったパズル・ゲームで英語を楽しく学ぶ週1回のイングリッシュ・ラウンジ、留学生と本校の学生が集う留学生国際交流パーティー（約100名）などを行っています。

高学年を対象とした「世界と対話する」では、コミュニケーションツールとして英語が使える、世界に友達を作ることを目指しています。プログラムとしては、10年以上に渡り交流を続けているハワイ大学マウイ校姉妹校交流研修（19名参加）では現地での語学研修に加えホームステイやマウイ校学生とのスカイプ交流授業、ALL English Campでは近隣の高専・高校とのジョイント活動等を通じて、対話力と友達作りを目指しています。

専攻科生を対象とした「世界に挑戦する」では、専門技術をバックボーンにし、研究成果の国際学会発表や海外インターンシップを通じて世界に挑戦します。専攻科生を中心としてISTS国際学会（4名）や高専機構が主催している海外インターンシップへの積極的な参加を推進しています。

世界を知り、世界と対話し、そして世界に挑戦する

国際交流室

世界を知る

昨年度から、本科1～3年生を対象として大連大学との交流を行っています。

今年度は9月10日～14日の4泊5日で大連を訪問し、日系企業訪問のほか、大連大学の学生と日本語や英語で交流をしました。

研修に参加した学生達は、大連が予想以上に都会であることに驚愕するとともに、大連大学の学生たちの語学力の素晴らしさを目の当たりにし、決意を新たに相互理解・国際交流の大切さを学んでいます。

世界と対話する

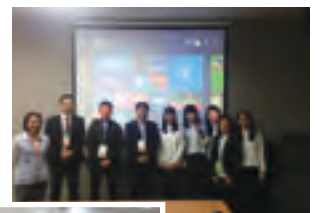
2014年9月11日～17日、姉妹校であるハワイ大学マウイ校と交流研修を行いました。

学生たちはホームステイをしながら大学の授業を受けただけでなく、現地施設や名所を見学し、文化や伝統に直接触れる体験もできました。

世界に挑戦する

11月19日～21日、台北で開催されたISTS 2014で本校の学生4名（専攻科2年生2名、専攻科1年生2名）が研究発表を行いました。

研究者の卵として、世界に羽ばたく第一歩を踏み出しました。



ニュース & トピックス

無限大の可能性 co-ba 呉高専

広報副委員長：下岡 優希（環境都市工学科3年）



図書館棟に一步足を踏み入れると、なんとも暖かい木の匂いが私たちを迎えてくれます。正面左を振り向くとそこには木のフローリングにブラックの棚。変形自在の机。個性的なのにどこか統一感のある椅子たち。何か起こりそうな予感。この空間こそが「co-ba 呉高専」です。以前のこの空間はただの図書館棟ロビーでした。カラフルな椅子たちに、変わった形の机たち。どこか無機質な空間でした。ここに変化が起きたのが2014年の夏。突然学生課ロビーを自分たちの手で変えようとプロジェクトが発足したのです。自分たちの手で自分たちの学校を変えるという動きは前代未聞です。外国には前例があるようですが、日本ではありません。その中で私たち学生がやり遂げられるのか…。初めは半信半疑で私は参加しました。いざ参加してみると、実際にロビーを大きく変化させるまでに沢山のミーティングを行い、沢山の準備をしました。co-ba呉高専を本格的に大きく変化させたのは9月21日から22日にかけて。それに向けてアイデア発想の仕方を学んだり、当日の食事の調

達をしたり各分担したグループの役割を学生たちは着々とこなしていきました。とうとう本格的な作業に入った9月21日と22日。私はデジタル班のグループに入り、写真撮影を担当しました。2日間撮影していて私が目にしたのもの…それは今までに見たことのないような学生たちのキラキラした瞳でした。心からのものづくりを楽しんでいる様子がファインダー越しでも伝わってきました。そのとき私はこのプロジェクトは呉高専の学生たちだからこそ成功できたのだと確信しました。この空間をみんなで作ることによって、1つのものをみんなで作る楽しさ、素晴らしさ、そしてなによりものづくりの楽しさを私たちに気づかせてくれました。それに加え不可能と思えた“自分たちの手で自分たちの学校を変える”これを達成することにより自分たちの新たな可能性を見出すことができました。これらのことが気づけたのはこのプロジェクトが成功した形であるからだとはおもいません。しかしそれだけではありません。私たちに大きな手助けをしてくれた多くの方がいたからこそです。その事を忘れてはいけません。沢山の人が関わって、沢山の想いが詰まったこの空間。呉高専の学生にとっての原点ともいえるこの空間を私たちはこれからどんな風に作り上げていくのでしょうか。

私たちが作る高専祭

広報副委員長：下岡 優希（環境都市工学科3年）



高専生活において一番の学生の楽しみ。それこそが呉高専祭。2014年11月1日から2日の2日間、呉高専祭が開催されました。50周年の節目を迎える高専祭。この年の高専祭は私にとって一味違いました。私は今回ずっと参加したかった高専祭実行委員に参加しました。その中でも企画部の一員となりました。高専祭実行委員が本格的に始動し始めるのは夏休みが終わってすぐ。陸上のグラウンド隅にある学習研究室（通称：学研）が主な作業場です。高専祭実行委員には4つの大きな部署があります。技術部、運営部、広報部、企画部。各部署が約2ヶ月間毎日放課後、学研に足を運び作業をします。大きな看板を作ったり、ステグラを作ったり、パンフレットを作ったり、企画を作ったり…。毎日ひとつずつ完成に近づいていきます。しかしそれが毎日確実に進むとは限りません。時には問題が起こったり、思い通り

にいかなかった日もあります。しかしそんな時も実行委員で力を合わせて乗り越えてきました。振り返れば大変なことも沢山ありましたが、それ以上に充実した日々でした。私がした作業の中で、2日目の最後にあるエンディングを担当しました。私は物心ついたころからこの高専祭を見てきていてエンディング最後に流れるビデオをいつの日か自分が作りたいと思っていました。今回そのエンディングを担当させてもらい毎日ビデオカメラを持って学研に向かいました。私の撮りたい映像に忙しいのに協力してくれたり…。沢山の支えによって私の夢だったエンディングを大成功させることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさんは“高専祭実行委員は忙しくて大変”とよく耳にするかもしれません。実際に忙しくて大変ではないことはありません。しかし、きっとみなさんの一生に残る大切な思い出を作ることができます。さあ、みなさん一緒に一生の思い出作りませんか？





図書館の利用の仕方

広報委員長：小西 菜月（環境都市工学科 4 年）

みなさんは、本を借りるときや勉強するとき以外で学校の図書館を利用することはありますか？図書館内のパソコンの置いてある奥の窓側の青い壁で囲まれたスペースが何か知っていましたか？実はあそこのスペースにはテレビがあり、図書館所蔵の視聴覚資料を視聴することができるのです。

私は最近、友達とそこで DVD をみることにハマっています。利用するようになったのは 3 年生のときに先輩に教えてもらってからで、それまでほとんどは試験週間に勉強をするためだけに図書館を利用していました。DVD には洋画や邦画の古いもの



「ハリーポッターと賢者の石」鑑賞中

から最近の映画はもちろん、NHK で放送していたプロジェクト X などの番組や例えば冬のソナタなど様々な種類があるのでその時の気分で楽しむことができます。だから、学校の図書

館で DVD を視聴できることを知らなかった低学年の頃はもったいなかったな、と思います。

また、図書館には雑誌が置いてあり、その貸し出しもできるということも知っていましたか？私的には 2014 年 11 月号の美術手帖のティム・バートンの特集を読んで、バートンの作品や作品が作られた背景などを知ってから DVD をみる方法がおすすめです。呉高専の図書館にも『シザーハンズ』『チャーリーとチョコレート工場』『アリス・イン・ワンダーランド』などのバートンの作品があります。

最近話題になった映画だと『風立ちぬ』や『アナと雪の女王』も置いてあります。まだ観てないという人は勉強の息抜きにでも視聴してみてください。ただし、映画に夢中になって勉強に戻れなくならないように気を付けてください…。



美術手帖 2014 年 11 月号
株式会社美術出版

2014 年度 高専女子フォーラム in 中国 について

男女共同参画推進室

平成 26 年 12 月 20 日（土）、広島国際会議場において「2014 年度高専女子フォーラム in 中国」が企業関係者をはじめ中学生、保護者、高専女子学生、教職員など 383 名の参加により開催されました。

フォーラムは、最初に中国地区 8 高専 64 名の女子学生による高専の専門教育、研究、学生生活についてのポスター発表をまず中学生とその保護者を対象に行い、次に企業の方を対象に行われました。最後は、企業の方による女性技術者の活躍や男女共同参画の取り組み等のポスター発表を高専女子学生・高専教員に向けて行われました。

本校からは、5 ブース 8 名の女子高専生が参画し、来場者（中学生及び企業の方）にポスター発表を行いました。

参加女子学生からは「回数を重ねていくうちに原稿を読むのではなく、私たちの言葉で伝えることができるようになりました」「私たちの取り組みへの思いが伝わり、とても嬉しかったです」「実際に体験した人から話を聞くことで、その取り組みの素晴らしさを生で感じることができました（他高専の話聞いて）」「企業について知ることもでき、発表の仕方の勉強にもなりました（企業の発表を聞いて）」等の感想をいただきました。

最後に、会場の準備や片づけなど多くの学生にご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



Realize your Dream

君の未来を共に創る

呉高専ではホームページで
球技大会、高専体育大会、駅伝大会、ロボコン大会等、
校内外の行事や授業風景、寮の様子、クラブ活動など日々の学生生活を
「呉高専日誌」で紹介しています。



呉高専 検索

呉高専ホームページ
<http://www.kure-nct.ac.jp/>

本校へのアクセス



交通案内

▶▶ お車でお越しの場合

- 【広島方面から】広島呉道路（クレアライン）呉ICより20分。
- 【東広島方面から】東広島呉道路、先小倉交差点より5分。
- 【竹原方面から】国道185号、先小倉交差点より5分。

▶▶ 交通機関をご利用の場合

- JR呉線安芸阿賀駅下車 徒歩約7分。
- 広島電鉄バス「先小倉」「阿賀駅前」下車、徒歩約10分。

呉高専だより 71号 2015年3月

編集・発行 呉工業高等専門学校 広報室
協力 学生会広報委員会

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11
TEL. 0823-73-8964 mail. kouhou@kure-nct.ac.jp

